

昆虫類 トンボ目

市内には川や堀、沼などが多く多くのトンボ類が生息する。特に都幾川はサナエトンボ類が多いので、県外からもトンボ類の写真を撮る人も訪れる。調査では下表の7科36種を確認した。

調査での出現種			
群No	目名	科名	種名
1	トンボ目	アオイトトンボ科	アオイトトンボ
2			オオアオイトトンボ
3		イトトンボ科	イトトンボ科 sp
4			オオイトトンボ
5			クロイトトンボ
6			セスジイトトンボ
7			アジアイトトンボ
8			ホソミイトトンボ?
9		オニヤンマ科	オニヤンマ
10		カワトンボ科	アオハダトンボ
11			ハグロトンボ
12			ミヤマカワトンボ
13		サナエトンボ科	アオサナエ
14			オナガサナエ
15			コオニヤンマ
16			サナエトンボ科 sp
17			ダビドサナエ
18			ヒメサナエ

調査での出現種			
群No	目名	科名	種名
20	トンボ目	サナエトンボ科	ホンサナエ
21			アキアカネ
22		ウスバキトンボ	
23		オオシオカラトンボ	
24		コシアキトンボ	
25		シオカラトンボ	
26		ショウジョウトンボ	
27		トンボ科	チョウトンボ
28			ナツアカネ
29			ノシメトンボ
30			ハラビロトンボ
31			マユタテアカネ
32			ミヤマアカネ
33		リスアカネ	
34		ヤンマ科	ウチワヤンマ
35			カトリヤンマ
36			ギンヤンマ



オオイトトンボ



クロイトトンボ

イトトンボの仲間は8種が見られた。小さいトンボなので見逃してしまうことも多いが、水草のある水面近くや、水路などの近くの林縁にいることが多い。身体は蛍光色を持っているものも多く、美しい種類が多い。



ハグロトンボ



ハグロトンボ幼虫

ハグロトンボ

河原や川に近い林に見られる。6月以降に出現し、9月下旬まで個体数も多く生息する。雄は写真のように腹部が緑色の金属光沢を持っているが、雌は黒い色をしている。都幾川には幼虫も多く、水中の草などに隠れているが、成虫とは形態が大きく違う。都幾川の鞍掛付近では5月中旬から、この種によく似たアオハダトンボが出現する。アオハダトンボは身体の緑色の鮮やかで、雌には羽の外弁の上部に白斑がある。ハグロトンボに比べ個体数が少ない。

カワトンボ科 ミヤマカワトンボ

上流の山地に近い河原に生息するが、都幾川では時には鞍掛付近まで稀に出現する。ハグロトンボに似るが、羽が茶色で見分けるのも簡単である。



ミヤマカワトンボ

サナエトンボ科

サナエトンボ科の種は、名前のようにイネ苗の出る季節、5月に多く発生する。中型の種で成虫は黒と緑の斑模様が特徴である。サナエトンボ科の幼虫は頭の前にある触覚がへら状になっている。



オナガサナエ



オナガサナエ幼虫 (ヤゴ)



ホンサナエ



ホンサナエ幼虫

サナエトンボ科 コオニヤンマ

都幾川では6月から7月に川の流れの上を飛翔する姿がよく見られる。サナエトンボの仲間であるが、大型でヤンマ類のようだ。川の淀んだゴミの中に隠れている幼虫は腹部が平たく丸い、特異的な形をしている。



コオニヤンマ



コオニヤンマ幼虫

オニヤンマ科 オニヤンマ

国内で最大のトンボで体長は10cm以上になる。山間の細い流れの近くになわばりをもって居ることが多いが、開けた場所にも飛来する。飛翔する姿はスマートで見事だ。セミなどを捕えることもあり、ムシャムシャと食べている音も聴くと、小さいものにとっては恐ろしい捕食者であるだろう。幼虫は水底に泥が有るような細い流れの中に潜んでいる。



オニヤンマ



コシアキトンボ



シオカラトンボ



オオシオカラトンボ



ショウジョウトンボ

トンボ科 コシアキトンボ

溜池などに多く見られる。水面上でなわばり飛行を繰り返し、枝などに止まることは少ない。ところが、最近は溜池で見る姿は少なくなった。市内あるいは周辺の町の溜め池はオオクチバスやブルーギルだけが生息するようになり、トンボ類の幼虫も食べられてしまったようだ。

トンボ科 シオカラトンボ

市内で見る一番ポピュラーなトンボで、腰の水色なのが雄、汚れた黄色なのが雌でムギワラトンボとも呼ばれている。雄は老齢になるとさらに水色から塩を噴いたような白色も混じる。まさに塩辛とんぼだ。子供の頃にはハエを糸で縛り、止まったトンボの前に出して振ると、釣れた。トンボ釣りであるが、餌釣りで、ギンヤンマを釣るトンボ釣りとは方法が違い、原始的な遊びであった。

トンボ科 オオシオカラトンボ

シオカラトンボに似るが胴の部分が黒く、身体全体がくすんだ水色をしている。水田のあるような谷津や林縁に見られる。

トンボ科 ショウジョウトンボ

溜池や水田などに見られる。真っ赤な体が特徴的で、赤とんぼとも言われるが、アキアカネなどより大きく、真夏に出現する。

トンボ科 ウスバキトンボ

夏から秋にかけて多数の個体が、谷津などの林に近い出現する。移動時、ときには何千、何万もの個体が谷津の水田の上に出現することもある。そんな光景に遭遇すれば幸運だ。



ウスバキトンボ

トンボ科 ノシメトンボ

夏から林間の空間に来ている。羽の先端が黒く、アキアカネより少し大きい。枝などによく止まる。のしめとは、格子縞や横縞、羽の先端の文様を見立てているのだろうか？



ノシメトンボ

トンボ科 アキアカネ

夏から秋に出現するアカトンボ。4 cm くらいで小さい。林縁の枝などによく止まっている。秋が深まるにつれて赤くなる。雌雄で体色には差があり、雄のほうが赤い。



アキアカネ

トンボ科 ナツアカネ

夏には見えないが、秋になると出現する。水田などで繁殖するのだが、暑い季節は高地に避暑に出ている。涼しくなる10月になると平地に戻ってくる。最近では農薬の影響で個体数が減っているとされる。この調査でも2004年の大谷瓦窯跡では沢山出現していたが、8年後の調査ではとても少なくなっていた。



ナツアカネ



リスアカネ

トンボ科 リスアカネ

市内で確認したのは都幾川の唐子橋の下流の堤防脇の林で1回目撃しただけであった。個体数は少なく、珍しいようだ。アキアカネなどと同じ程度の大きさで、林の日陰にいた。



マユタテアカネ

トンボ科 マユタテアカネ

夏から出現するアカトンボで、羽の先端が透明なもの、黒いものがある。個体数は多くはないが、夏の間はこの種が良く見られる。



チョウトンボ

トンボ科 チョウトンボ

真夏の溜池や水田に出現する。羽は特徴的で広く、飛び方もゆっくりで蝶のようにも見える。調査では数ヶ所しか見られなかったが、マコモなどある沼などでは個体数も多い。

水棲昆虫類 カゲロウ目、カワゲラ目、トビケラ目

水生昆虫であるカゲロウ類、カワゲラ類、トビケラ類は水質のきれいな川などに生息している。ほとんどの種は流のある瀬に生息し、水底の石の脇や下などに隠れ、藻類などを食べる。また水際の中にある草陰、落ち葉などの中、砂底の中に隠れているものもいる。市内の都幾川では、上唐子地区の流域で生息種数や個体数が多く、下流部の高坂の早俣付近では個体数は少なくなる。越辺川では早俣と同じような下流部で、個体数も少ない。また市野川、滑川では数種の生息が見られるだけで、個体数も少ない。

調査での出現種				調査での出現種			
群No	分類群	科名	種名	群No	分類群	科名	種名
1	カゲロウ目	カワカゲロウ科	キイロカワカゲロウ	29	カゲロウ目	マダラカゲロウ科	マダラカゲロウ属 sp
2		コカゲロウ科	コカゲロウ科 sp	30		ヨシノマダラカゲロウ	
3			フタバコカゲロウ	31		モンカゲロウ科	フタスジモンカゲロウ
4			シロタニガワカゲロウ	32			モンカゲロウ
5		タニガワカゲロウ科	セスジミヤマタニガワカゲロウ?	1	カワゲラ目	アミメカワゲラ科	アミメカワゲラ科 sp
6			タニガワカゲロウ科 sp	2		コグサミドリカワゲラモドキ属?	
7			タニガワカゲロウ属 sp	3		ヤマトヒロバネアミメカワゲラ	
8		チラカゲロウ科	チラカゲロウ	4		フタツメカワゲラ科	フタツメカワゲラ属 sp
9		ヒラタカゲロウ科	ウエノヒラタカゲロウ	5		クロカワゲラ科	ヤマトフタツメカワゲラ
10			エルモンヒラタカゲロウ sp	6		クロカワゲラ科 sp	
11			タニヒラタカゲロウ sp	7		ミドリカワゲラモドキ科	ミドリカワゲラモドキ属 sp
12			ナミヒラタカゲロウ	1	トビケラ目	エグリトビケラ科	アツバエグリトビケラ属 sp 巢
13			キハダヒラタカゲロウ	2		エグリトビケラ科	エグリトビケラ科 sp
14			キョウキハダヒラタカゲロウ?	3			グマガトビケラ属 sp
15			サツキヒメヒラタカゲロウ?	4			コエグリトビケラ
16		ヒメヒラタカゲロウ sp?	5	ニンギョウトビケラ			
17		オオフタオカゲロウ	6	ホタルトビケラ属 sp			
18		フタオカゲロウ科	オオフタオカゲロウ属 sp	7		シマトビケラ科	ウルマーシマトビケラ
19			ヒメフタオカゲロウ属 sp	8		トビケラ科	コガタシマトビケラ
20			フタオカゲロウ科 sp	10		ナガレトビケラ科	ヒロアタマナガレトビケラ
21		マダラカゲロウ科	アカマダラカゲロウ	11			ムナグロナガレトビケラ
22			イマニシマダラカゲロウ	12			ヒゲナガカワトビケラ科
23			エラブタマダラカゲロウ	13		ヒゲナガカワトビケラ	
24			オオマダラカゲロウ	14		ヒゲナガトビケラ科	コヤマトビケラ?
25			クロマダラカゲロウ	15			セトトビケラ属 sp
26				チエルノバマダラカゲロウ			
28				フタマタマダラカゲロウ			

カゲロウ目

水生昆虫であるカゲロウ目の種は、水質のきれいな流のある川に生息し、より水質のきれいな上流部や溪流部に多く生息している。市内の河川は中流域であるが、都幾川と越辺川に種数は少ないが多数の個体が生息し、市野川、滑川には限られた種類の少数個体が生息するだけである。カゲロウ類は河川の瀬などの流のある石の下などに隠れていて、春から初夏の頃に羽化して繁殖のために空中を飛翔する。



シロタニガワカゲロウ

タニガワカゲロウ科 シロタニガワカゲロウ

流れのある瀬の石の間に生息する。都幾川では普通種で個体数も多い。市野川でも少数の個体が見られる。尾は3本で、この写真より若干長い。チョロ虫などと称され魚釣りの餌として使った記憶のある人も多いだろう。



エルモンヒラタカゲロウ

ヒラタカゲロウ科 エルモンヒラタカゲロウ

このカゲロウも流のある瀬に生息する。酸素量の多い河川の礫の間に隠れて、石に付く有機物を餌にしている。体にある大きな鳃盤とその点々のある模様、2本の長い尾が特徴。ヒラタカゲロウ類は種類が多いが、市内では都幾川では見られるが、市野川や滑川にはいない。



ヒメヒラタカゲロウ科 sp

ヒメヒラタカゲロウ科 ヒメヒラタカゲロウ科 sp

小さいカゲロウ類で石の間に生息する。この個体は越辺川で確認した。市内では都幾川にも生息するが、市野川や滑川にはいない。

コカゲロウ科 コカゲロウ科 sp

コカゲロウ類は多くの種が見られるが、顕微鏡的な同定が必要で、種の同定ができていない。カゲロウ類は早春から夏にかけて羽化が行われるが、残念ながら筆者には幼虫と成虫がどうつながっているのかも理解できていない。ただし、この幼虫の面構えは映画のエイリアンを想起させるものや、宇宙人のような形態のものも見られる。



コカゲロウ科 sp



クロマダラカゲロウ



ヨシノマダラカゲロウ

マダラカゲロウ科

マダラカゲロウ類は水底の石の下などに棲んでいる。すこし華奢に見えるクロマダラカゲロウなどの仲間や、二の腕が盛り上がり力持ちで、角がある鬼のようにも見えるオオマダラカゲロウやヨシノマダラカゲロウなどの仲間がいる。いずれも一癖ありそうな面々であるが、1 cm 以下の虫で、水の中、食性も植物質でおとなしい。もし、巨大で肉食だったら、さぞかし恐ろしいことだろう。

カワカゲロウ科 キイロカワカゲロウ

流のある瀬の砂の中などで捕獲できる。1 cm を超える程度の体長で、お腹の脇には毛上の鰓^{えら}がある。



フタマタマダラカゲロウ



キイロカワカゲロウ



チラカゲロウ

チラカゲロウ科 チラカゲロウ

体長は18mmくらいと大きく、身体全体がチョコレート色で活発に動く。瀬に生息していて年2回、初夏と秋に羽化をする。

カワゲラ目

カワゲラの仲間の名前は、虫の顔つきにちなみ、たとえば、東郷、上村、大山など明治時代の軍人の大将の名前がつけられている。残念ながら市内の調査場所では、強そうな名前の種類は出現しなかったが、都幾川のの上流には生息している。カワゲラ類は肉食で活発に動きカゲロウなどを捕食する。種数、個体数共に、水生昆虫類のなかでは少数である。川の瀬などの流のある水底に生息している。以下の種は調査での確認種である。



フタツメカワゲラ科の個体



アミメカワゲラ科 sp



アミメカワゲラ科 sp
(ヤマトヒロバネアミメカワゲラ?)

トビケラ目

トビケラ類も川の流れのある瀬に多く生息する。身体は柔らかく、外敵の攻撃に弱いので、石の下に網を張って棲み、流れてくる植物質の餌を食べるもの、植物質や、小石、砂粒で見事な筒状の外壁を作り、水底や石の裏を移動して採食するものがある。蛹までは水生だが、羽化すると空中に出て繁殖行動に入る。信州ではこのヒゲナガカワトビケラの仲間をザザムシと呼んで佃煮風にして食べる。食べてみたが、少し泥のような食味だった。



ヒゲナガカワトビケラ



ヒゲナガカワトビケラの成虫

ナガレトビケラ科

ムナグロナガレトビケラ

ナガレトビケラの仲間はトビケラ類のなかでも網を張らずに水中を動き回る。

トビケラ類のなかには、小石や砂粒を自分で吐き出す粘液で固め、外壁を作り、柔らかい体を保護しながら、動き回る種も多く見られる。種毎に体を包む外壁の形や材質の選び方には違いがあり、どの種も精巧で見事な仕事をしている。例えば都幾川にも多いニンギョウトビケラは小さい砂粒の本体に大きめの砂粒を筒の両側に3個ずつ付けている。グマガトビケラは1 cm を超える程度の大きさで、径は2 mm 程度の筒を造るが外壁は緻密である。またヨツメトビケラは砂粒で2 cm を超える長さ、径5 mm くらいもある美しい筒を造る。植物で筒を造る種では四角形の筒を造るコカクツツトビケラや2 cm を超える長さの筒を造るオオカクツツトビケラなど多様な形態がある。30 年前には上唐子付近の都幾川ではコカクツツトビケラは見られていたが、現在はいないようだ。また多くの種は上流や山間の小さな流の中に生息しているものが多い。



ムナグロナガレトビケラ



コガタシマトビケラ



グマガトビケラ



オオカクツツトビケラ?



コヤマトビケラ

鞘翅目の水生昆虫

鞘翅目にはゲンゴロウ類やドロマシ類、ガムシ類など幼虫期や成虫になってからも水の中に生息する種類もいる。形は様々で、ゲンゴロウやガムシの幼虫はアニメの「風の中のナウシカ」に出てくるモチーフに近い形をしている。



ヒラタドロマシ幼虫



マメゲンゴロウ科 sp の幼虫



ヒメガムシの幼虫



ヒメガムシの成虫

昆虫類 ハサミムシ目

地面の石や倒木などの下に見られる。以前には庭に積んだ落ち葉などの腐葉土の中によく見られたが、最近はあまり見かけない。この調査では下表の3種が見られた。

調査での出現種			
群No	分類群	科名	種名
1	ハサミムシ目	オオハサミムシ科	オオハサミムシ
2		クヌギハサミムシ科	クヌギハサミムシ科 sp (エゾハサミムシに似る)
3		マルムネハサミムシ科	ヒゲジロハサミムシ



オオハサミムシ



ヒゲジロハサミムシ

昆虫類 ナナフシ目

ナナフシ科 ナナフシ (ナナフシモドキ)

ナナフシの仲間には国内には数種いるが、市内ではこの1種が見られるだけである。名前はナナフシだが、体節は幾つあるのだろうか？ 調査では市民の森や比丘尼山などで記録があった。森林に生息し、擬態するように木の枝のように静止したままのことが多く、動くときも緩慢である。



ナナフシ

調査での出現種			
群No	分類群	科名	種名
1	ナナフシ目	ナナフシ科	ナナフシモドキ

昆虫類 直翅目

この分類群は、コオロギ、バッタ、キリギリス類などが含まれる。春、夏から秋、さらに初冬の頃にかけて、様々な音を奏でる様々な種がいる。羽をすり合わせ音を出す、市内では以前はクツワムシ（地元ではガシャガシャと呼ばれた）や上唐子の飛行場跡（現在の東松山工業団地）にはマツムシなどもいたが、今では声も無い。秋の虫のシンフォニーは年々、微妙に変化している。

調査では下表の種が出現した。

調査での出現種			
群No	科名	種名	
1	カネタタキ科	カネタタキ	
2	カマドウマ科	マダラカマドウマ	
3		ウスイロササキリ	
4		オナガササキリ	
5		ヒガシキリギリス	
6		クサキリ	
7		クビキリギス	
8		キリギリス科	コバネササキリ
9		ササキリ	
10		ハタケノウマオイ	
11		ヒメギス	
12		ホシササキリ	
13		ヤブキリ	
14		コオロギ科	エンマコオロギ
15			クマコオロギ
16			クマズムシ
17	ツツレサセコオロギ		
18	ハラオカメコオロギ		
19	ミツカドコオロギ		
20	モリオカメコオロギ		
21	ツユムシ科	サトクダマキモドキ	
22		アシグロツユムシ	
23		セスジツユムシ	
24		ツユムシ	

調査での出現種			
群No	科名	種名	
25	ノミバッタ科	ノミバッタ	
26		イボバッタ	
27		オンブバッタ	
28		クルマバッタ	
29		クルマバッタモドキ	
30		コバネイナゴ	
31		バッタ科	ショウリョウバッタ
32		ツチイナゴ	
33	ヒシバッタ科	ツマグロイナゴモドキ	
34		トノサマバッタ	
35		ヤマトフキバッタ	
36		フキバッタの仲間 sp	
37		トゲヒシバッタ	
38		ハネナガヒシバッタ	
39		ハラヒシバッタ	
40	ヒシバッタ科 sp		
41	ヒバリモドキ科	ウスグモズ	
42		クサヒバリ	
43		シバスズ	
44		マダラスズ	
45	マツムシ科	アオマツムシ	
46		カンタン	
47		スズムシ	

カマドウマ科 マダラカマドウマ

林内の樹洞や古い物置などに住んでいる。急に飛び出してびっくりするが、噛む事もないので人畜無害。



マダラカマドウマ

キリギリス科 クビキリギリス

春から草むらでジーと耳が痛くなるような鳴き声を立てているのが、この虫である。首切りとは名前が踊るが、口が赤いので、命名者が想像した結果なのか？緑色と茶色の二型の個体がいる。



クビキリギリス

キリギリス科 クサキリ

夏から秋まで草むらでジーと鳴く。クビキリギリスより声は小さく、身体は少し丸い。



クサキリ

キリギリス科 キリギリス

夏の草むらの代表種でチョン、ギースと鳴く。山間の谷津や、河原の草むらなど多くの場所で見られる。最近の分類ではキリギリスは東日本のヒガシキリギリスと西日本に分布するニシキリギリスと分けられている。



キリギリス



ハタケノウマオイ

キリギリス科 ハタケノウマオイ

スイチョン、スイチョンと鳴く声は良く知られているが、最近では声を聞かない。調査でも都幾川の高坂地区にある堤で目撃しただけで、あまり姿は見かけず、減少しているようだ。



アオマツムシ

マツムシ科 アオマツムシ

街路樹などで夏から秋まで鳴き声が続く。大きな音でリーリーと鳴くのが、今では夏の風物詩のようになっている。中国原産の外来種で国内には明治時代頃に入ったが、今のように個体数が増えたのはそんなに昔ではなかったような。



クサヒバリ

ヒバリモドキ科 クサヒバリ

フィリリリ・・・と林縁の茂みの中で美しく鳴く。近寄ると鳴き止んでしまうので、姿を見つけるのが難しい。褐色の2cmに満たない小さな身体で、長い触角がある。



マダラスズ

ヒバリモドキ科 マダラスズ

庭や畑、丈の低い草のある場所に見られる。体長は1cm以下で、ちょっと低めな音でジーツ、ジーツ、と鳴く。



セスジツユムシ

コオロギ科 エンマコオロギ

ヒョロリー、ヒョロヒョロリーと聴こえるような鳴き声、庭から路傍の草むらまで幅広い環境に生息している。コオロギの中では大型で、個体数も多い。どの調査地でも住んでいる。8月下旬になると鳴き始め秋を感じる。写真はお尻から長い産卵管が突き出しているので雌。



エンマコオロギ♀

コオロギ科 ミツカドコオロギ

ギツギツギツ、と鋭く鳴く。庭から、路傍、河原の草地などに生息している。雄は写真のように顔の左右に角が突き出したような独特な顔をしている。雌にはこの角は無い。



ミツカドコオロギ

コオロギ科 クマスズムシ

湿った河原などの草地に生息する。周波数の高いキーンとした音で鳴く。高齢者には聴きづらい。1 cm くらいの黒い体で、スズムシに似るところもあるが、鳴きかたは別物。



クマスズムシ

バッタ科 イボバッタ

あまり草の無い裸地の多い場所に生息する。3 cm くらいの中型の大きさと、体にはイボイボがあり、砂利のあるような場所では保護色をしている。



イボバッタ



オンブバッタ

バッタ科 オンブバッタ

畑や草むらに普通に見られる。写真の下は雌、上は雄で、よくこのように交尾している姿をよく見かける。



コバネイナゴ

バッタ科 コバネイナゴ

昔からイナゴとして親しんでいる。強い農薬を使っていた頃には、ほとんど姿が消えていたが、最近をよく見かけるようになった。イネの害虫だが、実りの秋にはイナゴ捕りに来ている人を見かける。捕えようとすると、草の裏側にスッと回り隠れる。捕えた後は、布袋に入れて数日置き、糞を出してから茹で、大きな後脚を取り、炒ってから味を着ける。美味しいかって? ・ ・ むむ ・ ・ 珍味。



ツマグロイナゴモドキ

バッタ科 ツマグロイナゴモドキ

イナゴに似るが別種、高坂地区の都幾川で河原に多く見られた。羽の先端が黒く、後脚の関節部の黒いのも特徴である。



ツチイナゴ

バッタ科 ツチイナゴ

一年に2回も発生し、越冬もしている。草むらや林縁に見られ、個体数も多い。複眼の下にある楔形の涙が落ちて痕をつけたような黒い模様が特徴。



シヨウリヨウバッタ



シヨウリヨウバッタ隠蔽色（中央右にいる）

バッタ科 シヨウリヨウバッタ

大きい個体では10cmに達するものもいる。草むらを歩いていると飛んで逃げ、草に止まると、非常に見つけづらい。動かなければ簡単には見つからないような隠蔽色をしている。茶色の個体が枯れ草の中にあると、まったく見つからない。

バッタ科 トノサマバッタ

大きなバッタで、まさに殿様。農耕地や空地の草原、河原などに多く見られ、近寄ると巧みに飛翔して10mも移動して逃げる。体が緑や茶色の個体がいる。雌は大きく、雄は小さい。



トノサマバッタ

バッタ科 ヤマトフキバッタ

森林内に生息するバッタで、市民の森で見かけたが、個体数は少ない。東秩父などの低山に行くと、道端で他のよく似た種も見かける。あまり活動的ではない。



ヤマトフキバッタ

ヒシバッタ科

ヒシバッタ科の種は1～2cmくらいで、小さく褐色から黒褐色の地味な隠蔽色で、庭や畑などの開けた地上にすることが多く、動いて逃げなければ見つけることも難しい。ハラヒシバッタが一番多いが、^{さやぼね}鞘翅の長い下記2種も混じる。



ハラヒシバッタ

ヒシバッタ科 ハラヒシバッタ

畑や路傍にいる1cm程度の小さいバッタで、茶色の体色、背に黒い斑紋がある。体の形がちょうど菱形になる。



ハネナガヒシバッタ

ヒシバッタ科 ハネナガヒシバッタ

ヒシバッタに似るが^{さやぼね}鞘翅が長く突き出ている。



トゲヒシバッタ

ヒシバッタ科 トゲヒシバッタ

胸部体節の中央部に棘上の突起がある。

登場直翅目の一部の顔ぶれ

直翅目の虫はどことなく一癖ある面白い顔をしている。こんな顔役たちが身近に住んでいるのだから、自然は楽しい。



クビキリギス



セスジツユムシ



ウスイロササキリ



トノサマバッタ



ツチイナゴ



オンブバッタ



エンマコオロギ



コバネイナゴ

昆虫類 網翅目

調査ではオオカマキリ、コカマキリ、ハラビロカマキリの3種の成虫を確認した。また2個だけであるがチョウセンカマキリの^{らんろう}卵囊を見たが、チョウセンカマキリの生息は稀なようだ。

機嫌が悪いのか、怒らせると前脚を持ち上げ、翅を開き、捕食者を威嚇する種もある。調査では下表の種が出現した。

調査での出現種			
群No	目名	科名	種名
1	網翅目	カマキリ科	オオカマキリ
3			コカマキリ
4			ハラビロカマキリ
5			チョウセンカマキリ卵囊?

カマキリ科 オオカマキリ

体長8cm前後で国内のカマキリ類の中で一番大きい。前脚で獲物を捕える。小さい逆三角の頭にある口でムシャムシャと音をさせながら食べる。卵囊は褐色の泡状で、灌木などに産み付けられ、春、幼虫が糸を引きながら^{らんろう}卵囊から降りてくる。私はほとんどの虫を平気でつかむが、カマキリは何故だか苦手だ。



オオカマキリ



コカマキリ

カマキリ科 コカマキリ

体長5cm前後の小さなカマキリで、身体は灰褐色、前脚裏側の付け根と、腕の部分に青い斑紋がある。



ハラビロカマキリ

カマキリ科 ハラビロカマキリ

ずんぐりとした体型のカマキリで、体長は6cm前後になる。前翅中央の端にある白紋が目立つ。

網翅目 ゴキブリ亜目 ゴキブリ科

ちょっと敬遠したくなる仲間だが、家の中に居るゴキブリとは別の小型のゴキブリ類も野外の落ち葉に隠れている。調査では下表の種が出現した。

調査での出現種			
群No	目名	科名	種名
1	ゴキブリ亜目	ゴキブリ科	ヤマトゴキブリ
2			ゴキブリ科 sp
3			モリチャバネゴキブリ



モリチャバネゴキブリ

チャバネゴキブリ科 モリチャバネゴキブリ

林の落ち葉の中に隠れている。体長15mm程度のゴキブリ。

昆虫類 半翅目

この分類群はカメムシ類、セミ類、ヨコバイ類、水生昆虫のアメンボなどを含んでいる。触覚は4～5節で、複眼が左右に突出して、単眼が2個、無いものもある。植物の汁や動物の体液を、口吻を突き刺して吸う。カメムシ類やヨコバイ類など植物食のものは農業の大害虫であるものが多い。調査では下表の種が出現した。

調査での出現種				調査での出現種				
群No	類分	科名	種名	群No	類分	科名	種名	
1	アブラムシ類	アブラムシ科	アブラムシ科 sp	26	カメムシ類	ナガカメムシ科	サレヒョウタンナガカメムシ	
2			コウゾリナヒゲナガアブラムシ	27			ジュウジナガカメムシ	
3			ハリエンジュアブラムシ	28			チャモンシロナガカメムシ	
4	アワフキムシ類	アワフキムシ科	アワフキムシ科 sp	29			ヒメジュウジナガカメムシ	
				30			ヒメナガカメムシ	
5	ウンカ類	グンバイウンカ科	ミドリグンバイウンカ	31			モンクロナガカメムシ	
				32			メダカナガカメムシ	
6	カメムシ類	カメムシ科	オオホシカメムシ	33			ノコギリカメムシ科	ノコギリカメムシ
			ヒメホシカメムシ	34			クロスヒゲナガカメムシ	
			ヒメオオメナガカメムシ	35			ヒゲナガカメムシ科	ヒゲナガカメムシ
			オオメナガカメムシ	36			エチゴヒゲナガカメムシ	
			アオクサカメムシ	37			ヒメヘリカメムシ科	アカヘリヒメカメムシ
			ウズラカメムシ	38			ヒョウタンナガカメムシ科	オオモンシロナガカメムシ
			クサギカメムシ	39	ヒョウタンナガカメムシ			
			クチブトカメムシ	40	モンシロナガカメムシ			
			12	シラホシカメムシ	41	ヨツボシヒョウタンタナガカメムシ		
			13	シロヘリクチブトカメムシ	42	ヘリカメムシ科	キバラヘリカメムシ	
14	チャバネアオカメムシ	43	ツマキヘリカメムシ					
15	ナガメ	44	ハラビロヘリカメムシ					
16	ヒメナガメ	45	ハリカメムシ					
17	ブチヒゲカメムシ	46	ホオズキカメムシ					
18	フタテンカメムシ	47	ホシハラビロヘリカメムシ					
19	ヘラクヌギカメムシ	48	ホソハリカメムシ					
20	アワダチソウグンバイ	49	ホソヘリカメムシ					
21	ツチカメムシ	50	ミナミアオヘリカメムシ					
22	ミツボシツチカメムシ	51	ヒメハリカメムシ					
23	エサキモンギツノカメムシ	52	ホソヘリカメムシ科	クモヘリカメムシ				
24	ツチカメムシ科	53	ホソヘリカメムシ					
25	ツノカメムシ科	エサキモンギツノカメムシ	54	マルカメムシ科	ヒメマルカメムシ			
55	マルカメムシ							

調査での出現種			
群No	類分	科名	種名
56	カメムシ類	マルカメムシ科	クズマルカメムシ
57		カスミカメムシ科	ナガクロカスミカメムシ
58			フタモンカスミカメムシ
59			モンキカスミカメムシ
60			モンキクロカスミカメムシ
61	サシガメ類	メダカナガカメムシ科	メダカナガカメムシ
62		サシガメ科	アカサシガメ
63			オオトビサシガメ
64			シマサシガメ
65			ピロウドサシガメ
66			アカシマサシガメ
67			ヤニサシガメ
68			ヨコヅナサシガメ
69			アシボントビロサシガメ
70	水生昆虫	アメンボ科	アメンボ
72		イトアメンボ科	コセアカアメンボ
73			ヒメアメンボ
74		シマアメンボ科	シマアメンボ
75		タイコウチ科	タイコウチ
76	マツモムシ科	マツモムシ	
77	セミ類	セミ科	アブラゼミ
78		クマゼミ	

調査での出現種			
群No	類分	科名	種名
79	セミ類	セミ科	ツクツクホウシ
80			ニイニイゼミ
81			ハルゼミ
82			ヒグラシ
83			ミンミンゼミ
84	テングスケバ科	テングスケバ科	ツマグロスケバ
85			テングスケバ
86	ハゴロモ類	アオバハゴロモ科	アオバハゴロモ
87		ハゴロモ科	ベッコウハゴロモ
88			スケバハゴロモ
89		ウンカ科	タテスジウンカ
90		オオヨコバイ科	オオヨコバイ
91			ツマグロオオヨコバイ
92		キジラミ科	キジラミ科 sp
93	ヨコバイ類	クロヒラタヨコバイ科	クロヒラタヨコバイの仲間 sp
		コガシラアワフキ科	コガシラアワフキ
94	ヨコバイ類	トゲアワフキムシ科	ムネアカアワフキ
95		ハネナガウンカ科	アカハネナガウンカ
96		ミミズク科	コミミズク
97	ヨコバイ類	ヨコバイ科	ツマグロヨコバイの仲間 sp
98			



ヒメアメンボ

アメンボ科 ヒメアメンボ

河川や小さな水路など水の淀んだ場所などに棲むアメンボで、個体数も多い。細かい毛のある足先で表面張力を作り、水の上に浮く。小昆虫などが水面に落ちると、集まってきて口吻で体液を吸って食べる。



コセアカアメンボ

アメンボ科 コセアカアメンボ

水路や小さい林に面した水溜りに生息する。背中が赤く、ヒメアメンボより少し小さい。



アカハネナガウンカ

ハネナガウンカ科 アカハネナガウンカ

10mm 足らずの小さな虫だが、拡大した写真は綺麗な生物である。家庭菜園のトウモロコシ畑で茎に多数のこの虫が付き、吸液していた。



オオヨコバイ

オオヨコバイ科 オオヨコバイ

ヨコバイ類の代表種のように、個体数も多い。10mm 程度の大きさ。草の液を吸って生活している。草の中を歩くと、沢山の個体が飛び出す。

オオヨコバイ科 ツマダグロオオヨコバイ

全長 13mm 前後、緑色で翅端に黒い模様、ヨコバイ類の中では大きく、庭、畑、林地など多くの場所で普通に見られる。写真を撮ろうとすると、ツツツ・・・と横に動き、茎の裏側へ隠れる。



ツマダグロオオヨコバイ

クロヒラタヨコバイ科 クロヒラタヨコバイ

5 mm 前後の体長、体は丸く黒く光沢がある。クヌギなどの広葉樹の葉上で見られ、4月から5月に成虫は出現する。



クロヒラタヨコバイ

ゲンバイウンカ科 タテスジウンカ

全長は 9 mm くらい、淡緑色の体と翅に入る縦線のコントラストが美しい。



タテスジウンカ

テングスケバ科 ツマダグロスケバ

全長は 14mm くらいで、暗褐色の体。小さなセミを思わせる。アカメガシワなど多くの樹上で見られる。



ツマダグロスケバ



テングスケバ

テングスケバ科 テングスケバ

20mm くらいもある大きなスケバ類で、顔の前面が鼻のように伸びている。滑川の堤の木にいたが、後にも先にも見たのはこの1回のみ。この姿、魅力的だと思うのだが。



コミミズク

ミミズク科 コミミズク

鳥のフクロウ類にも同じ名前を持っている種がいる。この虫は同じ名前だがとにかく形が変わっている。枝に平行に止まり、擬態しているが、カモの嘴のような部分の中ほどの目は警戒している。この虫は比丘尼山で見た1回だけ。そんなに個体数は多くない。

昆虫類 カメムシ類

カメムシ類にはサシガメの仲間とカメムシの仲間がある。多くの種が農業害虫であるが、蛾の幼虫を食べるような益虫と呼べるような種類もいる。興味をもってみると、美しい種が多い。臭い匂いを出すものもあるので、少し敬遠気味だが、この仲間が昆虫類で一番好きだと言っている変人もいる。自分も変人だが、人の興味は様々だ。群生するものはいろいろな年齢の個体が混じり群生していることも多い。成虫と弱齢虫の体色や形態は大きく違う。

サシガメ科 アカサシガメ

草むらに住み、小さい鱗翅目の幼虫を捕える。全長 15mm くらい、普通に見られ、全身が赤い。サシガメ類は頭が小さく、口吻が長いのが特徴。



アカサシガメ

サシガメ科 シマサシガメ

体長は 15mm 前後、樹上や草の上で見つかる。小型の甲虫類のハムシの仲間、鱗翅目の幼虫などを捕え、口吻を突き刺し、体液を吸って食べる。



シマサシガメ

サシガメ科 ヨコヅナサシガメ

名前のように大型のサシガメで、里地のサクラやエノキの樹幹に集団でいるのをよく見かける。昆虫やクモ類などを捕食する。分布は本州中部以西だったが、調査を始めた時からかなりの個体を目撃したが、さらに北へ分布を広げているようだ。



ヨコヅナサシガメ



ヒョウタンナガカメムシ

ナガカメムシ科 ヒョウタンナガカメムシ

体長は8mm、クマイチゴやキイチゴなどに寄生する。図鑑では山地性とあるが、里山でも生息している。



ホオヅキカメムシ

ヘリカメムシ科 ホオヅキカメムシ

全長は12mm前後、黒くて無骨な体型をしている。ナス科のナス、トマト、ホオヅキ、サツマイモなどの作物の害虫。成虫で越冬する。



ホシハラビロヘリカメムシ

ヘリカメムシ科 ホシハラビロヘリカメムシ

13mm前後の体長で、黄褐色の背に黒い点がある。この体色の似たような種も多く、同定が面倒だ。クズやフジなどのマメ科の植物に寄生して害を与える。



ホソヘリカメムシ

ホソヘリカメムシ科 ホソヘリカメムシ

15mm前後の体長で、細身の体と、よく飛んで観察者の体にも来る。ブーンと羽音を立てるので蜂と間違うくらいだ。大豆や小豆などのマメ科、稲や稗などのイネ科の植物の害虫だが、弱齢の個体は別種のように見える。

ヘリカメムシ科 クモヘリカメムシ

16mm 前後の体長で、ほっそりとした体型、イヌビエやエノコログサなどのイネ科の植物に寄生する。イネの穂を吸液して斑点米を出すこともある。でも私はこのカメムシがなんとなく好きだ。



クモヘリカメムシ

マルカメムシ科 マルカメムシ

体長は 5 mm 前後、丸い体型で、クズ、フジなどのマメ科の植物に寄生している。群生しているところをよく見かける。臭い匂いを出すので、ちょっと敬遠。



マルカメムシ

カメムシ科 ウズラカメムシ

体長は 10mm 未満、頭部が下に突き出している。イネ科の植物に寄生するので、イヌムギなどの葉に着いている。冬も成虫で越冬している。



ウズラカメムシ

カメムシ科 クサギカメムシ

体長は 15mm 前後、大豆などのマメ科、ミカンやカキ、ウメ、モモなど、いろいろな果実を吸液する。悪臭も出すので、出会いはうれしくないが、けっこう沢山いる。



クサギカメムシ



ブチヒゲカメムシ

カメムシ科 ブチヒゲカメムシ

体長 12mm 前後、体の中央の少し下に白い斑紋がある。マメ科、キク科などの植物に寄生、その他の植物にも広くついて吸液し食害する。家庭菜園でもエダマメに沢山ついていた。



シラホシカメムシ

カメムシ科 シラホシカメムシ

体長は 6 mm 前後と小さいカメムシで、後翅上部に白い斑紋が 2 個。イネ科、マメ科の植物に多く付く。イネの穂を吸液して害を成す。



ナガメ

カメムシ科 ナガメ

体長は 8 mm 前後、オレンジの隈取模様が美しく、普通に見られる。アブラナ科の植物に寄生する。最近では川の堤防ではアブラナ科のカラシナも繁茂しているので、繁殖には好都合なのだろう。



ヒメナガメ

カメムシ科 ヒメナガメ

体長 7 mm 前後でナガメに似るが、模様はもっと複雑である。アブラナ科の植物に付き、食害する。

カメムシ科 チャバネアオカメムシ

体長11mm前後、緑の体に茶色の羽がある。サクラ、クワ、ミカン、ブドウ、ウメなどいろいろな植物に付き食害する。成虫で越冬もする。作ったエダマメにも沢山付いていた。



チャバネアオカメムシ

ツノカメムシ科 エサキモンツノカメムシ

体長12mm前後、体の真ん中にハート型の紋様があり、肩には張り出した角のような突起がある。ミズキ、ウド、ハゼノキなどで見られる。雌は幼虫を保護する習性がある。このツノカメムシ科の仲間には美しい種が多い。



エサキモンカメムシ

ナガカメムシ科 ジュウジナガカメムシ

体長10mm前後、細長い体で黒と橙色の模様、ガガイモやカモメヅルなどガガイモ科の植物に付く。群生しているのもよく見かける。



ジュウジナガカメムシ

ヘリカメムシ科 キバラヘリカメムシ

体長15mm前後、背面は黒褐色で、腹面は黄色、脚も赤や、白、黒の部分とカラフルで美しい。ニシキギやマユミ、ツルウメモドキなどの植物にいる。いろいろな年齢の個体が混じり群生していたのを見たことがある。弱齢虫はオレンジ色。



キバラヘリカメムシ

ゲンバウムシ科 アワダチソウゲンバイ

3mm程度の体長で、小さい半翅目類。市内の調査でも多くの植物の葉上で観察できた。群生しているの、よく目に付くのだが、自分の持っている図鑑には載っていないが、専門家から教えてもらった。奇妙な体型に魅かれる。



アワダチソウゲンバイ

セミ科

とても身近な昆虫で、子供の頃から親しんでいるが、最近では個体数が減ったようで、街の中では鳴く声が減り、季節感が薄れている。市内では初夏、ハルゼミの鳴き声から始まり、ニイニイゼミ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ヒグラシ、そしてツクツクホウシと続いて秋になり終わる。最近はまだ稀ではあるがクマゼミが参加し始めた。でも、私の住む場所ではニイニイゼミとアブラゼミくらいしか鳴かない。少し寂しい。セミの生活史は産卵されてから成虫になるまでは数年はかかる。成虫での生存期間は短い、幼虫期のそのほとんどは地中での生活である。

セミ科 アブラゼミ

夏の到来をつげるようにジージーと大きな声で鳴く。鳴き声は暑さをさらに増している。ぐらぐら油が煮立ってくるような気分だ。茶色の羽はあまりにもありふれたセミで、子供の頃は捕ってもあまり嬉しくはなかったが、この不透明な羽は外国では少なく珍しいという。所変わればだ。



アブラゼミ

セミ科 ニイニイゼミ

ニーと高い音で鳴く声は、夏のバックミュージックだ。小さい体でよくあれだけの音が出せると感心する。年寄りになった私の耳の中では冬になっても鳴き止まない。



ニイニイゼミ

セミ科 ミンミンゼミ

ミーン、ミンミンミンミーと鳴く。関東から北では個体数は多い。緑の黒の斑の体と、透けた羽、大きな体、夏休みの昆虫採集では王様であった。今では市街地ではほとんど見かけないが、郊外には多い。



ミンミンゼミ

セミ科 ツクツクボウシ

アブラゼミやニイニイゼミより少し遅れ8月になってから出現する。10月になっても小数が生き残って鳴いている。体長は30mm前後だが、翅端までは45mmくらい。幼虫の脱殻は泥も付いてなく、ほっそりとして小さい。ニイニイゼミの幼虫の脱殻は泥が付いていてずんぐりしている。



ツクツクボウシ



アオバハゴロモ

ハゴロモ類

アオバハゴロモ科 アオバハゴロモ

成虫は夏に出現し、群生して多くの広葉樹やつる植物に寄生し、液を吸う。体長は10mm未満で、淡緑色で美しい。秋の終りまで見られる。



スケバハゴロモ

ハゴロモ科 スケバハゴロモ

全長は10mm前後で、小さいセミを思わせるような翅が透明で美しい。都幾川の河川敷ではよく見られた。



ベッコウハゴロモ

ハゴロモ科 ベッコウハゴロモ

全長は10mm前後、夏から秋にかけて成虫は出現する。クワやチャなどの多くの広葉樹に見られる。多くの調査地で普通に出現した。



マツモムシ

マツモムシ

水中に棲む半翅目の虫で、腹側を水面にする逆の姿勢で、水面のすぐ下にいる。口吻で水面に落ちてくる虫の体液を吸う。この虫の口吻で刺されると非常に痛いという。取り扱いには注意！

昆虫類 膜翅目

ハチ類の分類群であるが、ハチの仲間であるアリ類も含む。

調査での出現種			調査での出現種		
No	科名	種名	No	科名	種名
1	アナバチ科	アナバチ科 sp	36	アリ科	ムネアカオオアリ
2		キゴシジガバチ	37		ムネボソアリ
3		ジガバチ	38		ヨツボシオオアリ
4		サトジガバチ	39		ルリアリ?
5	アリ科	アズマオオズアリ	40		アリバチ科
6		アシジロヒラフシアリ	41	クモバチ科	オオモンクロクモバチ
7		アミメアリ	42	クモバチ科	ベッコウクモバチ
8		アメイロアリ	43		クモバチ科 sp
9		アリ科 sp	44		モンクモバチ
10		ウメマツオオアリ	45		ナミヒメクモバチ
11		オオハリアリ	46		フタモンクモバチ
12		カワラケアリ?	47		キオビクモバチ
13		クサオオアリ	48	ケアシハナバチ科	シロスジフデアシハナバチ
14		クロオオアリ	49	ケアシハナバチ科 sp	
15		クロクサアリ	50	シフトハナバチ科	クマバチ
16		クロヒメアリ?	51	コツチバチ科	ツヤアリバチ
17		クロヤマアリ	52	コマユバチ科	スズメヤドリコマユバチ
18		クボミシリアゲアリ	53	スズメバチ科	オオスズメバチ
19		ケブカツヤオオアリ	54		キアシナガバチ
20		コツノアリ	55		キイロスズメバチ
21		コヌカアリ?	56		キボシアシナガバチ
22		シベリアカタアリ	57		クロアナバチ
23		シリアゲアリ sp	58		コアシナガバチ
24		テラニシシリアゲアリ	59		コガタスズメバチ
25		トビイロケアリ	60		コスズメバチ
26		トビイロシワアリ	61		セグロアシナガバチ
27		ナワヨツボシオオアリ?	62		チャイロスズメバチ
28		ハヤシクロヤマアリ	63		トックリバチ
29		ハリナガムネボソアリ	64		ヒメスズメバチ
30		ハヤシケアリ	65		フタモンアシナガ
31		ヒメアリ	66		ムモンホソアシナガバチ
32		ヒメオオズアリ?	67	モンスズメバチ	
33		ヒメクロアリ	68	セイボウ科	オオセイボウ
34		ヒラフシアリ	69	ツチバチ科	オオハラナガツチバチ
35		ミカドオオアリ	70		オオモンツチバチ

調査での出現種		
No	科名	種名
71		キオビツチバチ
72	ツチバチ科	ツチバチ科 sp
73		ヒメハラナガツチバチ
74		サムライトックリバチ
75		スズバチ
76	ドロバチ科	ドロバチ科 sp
77		キアシトックリバチ
78		オオフタオビドロバチ
79		ミカドトックリバチ
80		オオハキリバチ
81	ハキリバチ科	ヤノトガリハナバチ
82		マメコバチ
83		ハキリバチ科 sp
84		シロスジヒゲナガハバチ
85	ハバチ科	ニホンカブラハバチ
86		セグロカブラハバチ
87		ハグロハバチ

調査での出現種		
No	科名	種名
88	ハバチ科	ハバチ科 sp
89	ヒメバチ科	ヒメバチ科 sp
90	フシダカバチ科	フシダカバチ科 sp (ツチスガリ?)
91		トラマルハナバチ
92		セイヨウミツバチ
93		ニホンミツバチ
94		マルハナバチの仲間 sp
95	ミツバチ科	シロスジヒゲナガ ハナバチ
96		ダイミョウキマダラ ハナバチ
97		ミツバチ科 sp
98		アカスジチュウ レンジバチ
99	ミフシハバチ科	ルリチュウレンジバチ
100		ミフシハバチ科 sp

アナバチ科 サトジガバチ

2 cm を超える程度の細長い黒い体、腹の前半は赤い色、地上近くを飛んでヤガ科やシャクガ科のイモムシを捕える。地上に穴を掘り、獲物を子供のために生かしたまま麻痺させて貯蔵する。ハチ類の繁殖は種毎に独特な生態を持っている。



サトジガバチ

アリ科

アリの仲間のほとんどは 1 cm 以下で小さい。調査では 18 種を確認し、種同定が不確かな sp あるいは属までしか分からなかったものが 10 種あった。また、調査を始めた頃には記録や調査器具、図鑑の不備で、記録のできていない期間があり、市内で生息するアリ科の種数をもっと多いと考えられる。最近では外来種が多く記録され、またヒアリなど刺されると非常に重症になるような種もいる。この調査では市内ではヒアリなどの分布は幸いにもなかった。生態は真社会性昆虫でカーストがあり、単数あるいは複数の女王アリ、兵アリ、働きアリ、雄アリなどに分かれている。肉食から植物や種まで広く利用する雑食性のものが多い。

アリ科 オオハラアリ

体長 3.5mm で中型のアリ。林縁部に住み、調査では市民の森で 1 回だけ出現した。あまり多くはないようだ。



オオハラアリ

アリ科 アズマオオズアリ

働きアリと兵アリには体の大きさに違いがあり、写真は 2.5mm の働きアリ、兵アリは 3.5mm で不似合いに頭部が大きく大顎も大きい。林内から公園のような場所でも見られる。かつては庭でもいた。赤アリとよんでいたが、よく見ると腹部には黒い模様がある。



アズマオオズアリ

アリ科 ムネボソアリ

体長は 3 mm 程度での小型のアリで、樹上性で枯れ枝中に巣をつくり、葉の上などで見られる。



ムネボソアリ

アリ科 トビイロシワアリ

体長 2.5mm と小型、草地などの開けた地上に棲み、最も普通種。多数の個体が虫の死体に集まり、食べているのを道路上などでよく見かける。



トビイロシワアリ



アミメアリ

アリ科 アミメアリ

森林や林縁に生息し、非常に沢山の個体が行列をつくり、移動するのをよく見かける。行列が20mもの距離になっていたのも見かけたことがある。樹木にも登り降りする行列もよく観察できる。2.5mmと小型で、とにかくせわしい。



テラニシリアゲアリ

アリ科 テラニシリアゲアリ

樹木の葉の上にいるのを見かけることが多い。柿のへたの中に入りこんでいることがよくある。2～4mmの大きさ。腹部は後端が尖り、すこし上に向く。



シベリアカタアリ

アリ科 シベリアカタアリ

体長は3mmと小型、樹上性で木の幹などを登っているのを見かける。朽木や枯れ枝中に巣を造るが、1つの巣にいる個体数はあまり多くはない。



トビイロケアリ

アリ科 トビイロケアリ

体長は2.5～3mm、草地でよく見かけ、アブラムシを保護しながら、アブラムシの出す液を舐める。普通に見られ個体数も多い。

アリ科 クロクサアリ

体長は4～5mmで艶のある黒色をしている。樹木の根付近に巣を造り、1つの巣に数千匹もの個体がいる。行列を作り移動するのをよく見かける。



クロクサアリ

アリ科 クロヤマアリ

最も普通に見られる種で、庭から畑まで広く分布する。4.5～6mmくらいの体長ですばやく動く。地上の石や土中に巣を造り、巣入り口には土を盛り、クレーター状になる。



クロヤマアリ

アリ科 ハヤシクロヤマアリ

林に生息する種で、クロヤマアリに非常によく似ているが、顔が細い。樹木によく登り、木の葉の上などにもいる。4.5～6mmくらいの体長。



ハヤシクロヤマアリ

アリ科 ムネアカオオアリ

林内に生息する山地性の種で10mm前後あり、大きい。胸から腹部の前面が赤く、同じような種はいないので、よくわかる。地上で生活し、市内では市民の森だけで目撃した。



ムネアカオオアリ



ミカドオオアリ

アリ科 ミカドオオアリ

体長は10mm前後で大型の種である。林内の暗い場所に生息し、枯れた竹や朽木に巣をつくる。調査では比丘尼山だけで目撃できた。



オオモンクロクモバチ

クモバチ科

この科のハチはクモ類を獲物にしている。獲物は針を刺し麻酔をして、巣に運び卵を産みつける。

クモバチ科 オオモンクロクモバチ

徘徊性の大型のクモ類を狩る。獲物は土中のモグラなどの坑道を利用して巣を造り繁殖する。



ナミヒメクモバチ

クモバチ科 ナミヒメクモバチ

木の葉に土で巣を造り、フクログモやササグモなどを狩る。捕えた獲物は巣に運び、保管した後に穴の入り口を泥で塞ぐ。

スズメバチ科

大形の強力な顎と強い毒を持つスズメバチや、身近にいるアシナガバチなどを含む仲間、人家周辺や山林に住み、スズメバチ類は大きな巣を造り、アシナガバチ類は10cm以下の小さな巣を造って繁殖する。市内でも多くの種類が生息している。

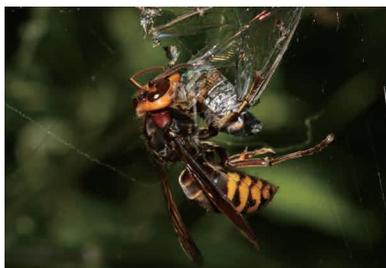


オオスズメバチ

スズメバチ科 オオスズメバチ

スズメバチの中でも最も大型で強い。大きな顎と強い毒のある針は強力、5cm

に近い体の羽音も迫力がある。よくミツバチの巣箱を襲い、全滅させることもあり嫌われる。地上の穴に巣を造り、知らずに近くを通ると、すぐに威嚇して来て、刺すこともあり、毒も強く非常に危険だ。



モンズズメバチ

スズメバチ科 モンズズメバチ

体長3 cm くらいで、腹部の文様が識別点になる。樹木の根元の穴によく巣を造る。気性は荒く、攻撃性が高い。



チャイロスズメバチ

スズメバチ科 チャイロスズメバチ

中型のスズメバチの仲間の中では体色が独特な褐色をしている。キロスズメバチやモンズズメバチの巣を乗っ取り、社会寄生を行う。女王蜂は殺し、働き蜂は労働力として使うという。ハチ類の生態は驚異に満ちている。



キアシナガバチ

スズメバチ科 キアシナガバチ

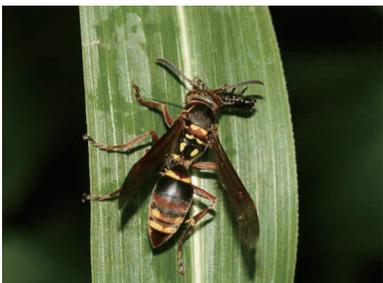
軒下などに巣を造り、人家周辺によくいるので足吊るしなどと呼ばれ、親しみのある種である。市内の各場所で目撃でき、個体数も多い。

スズメバチ科 キボシアシナガバチ

巣は木の枝などに作り、林のあるような場所で見られる。小型で2 cm 未満。



キボシアシナガバチ



コアシナガバチ

スズメバチ科 コアシナガバチ

市街地でよく見られる2cmに満たないアシナガバチで、堀、ひさしや石垣などに巣を造る。このハチだったか定かでは無いが、家の窓枠に巣があった。ある日スズメバチ(ヒメスズメバチ?)が巣に飛来して、巣筒の中の幼虫を捕らえ始めた。反撃でもするかと思ったが、このハチは巣の片隅にかたまり、スズメバチが巣を荒らすのを、なすがままにしていた。幼虫は何度も訪れるスズメバチに食われ、ほどなく巣は駄目になった。なんと不甲斐ないと思ったが、これも生存競争の正しい選択だったのだろう。



セグロアシナガバチ

スズメバチ科 セグロアシナガバチ

キアシナガバチに大きさや体色も似ている。巣は枝や軒下に造られ、小さなイモムシなどを狩って食べる。



ムモンホソアシナガバチ

スズメバチ科 ムモンホソアシナガバチ

林のある場所に住み、巣は薄くて平たい丈夫なものを作る。巣上に沢山の個体がうごめいているが、秋に巣から離れた樹木に数百匹のハチが集まっていたのを見たことがある。

ツチバチ科 キオビツチバチ

つる性の植物の蜜を舐めに来るが、繁殖には小型のクワガタムシの幼虫を狩る。地中に穴を掘り、幼虫の体に卵を産みつける。孵化したハチの幼虫、甲虫を食べながら大きくなる。



キオビツチバチ

ツチバチ科 ヒメハラナガツチバチ

普通に見られるツチバチで、スジコガネ科の幼虫を狩るといわれる。地中に穴を掘り、幼虫を仰向けにして卵を産みつける。



ヒメハラナガツチバチ

コツチバチ科 sp

雄は有翅だが、雌は無翅でアリのような形態をしている。1 cm くらいで小さく、地上を徘徊している。



コツチバチ科 sp

ハキリバチ科 ヤノトガリハナバチ

この属のハチは巣を作らず、ほかのハキリバチが獲物を貯食した巣に卵を産みつけ、労働寄生を行い、2 齢になった幼虫は、宿主の幼虫をかみ殺すという。ハチの世界も驚異と残酷に満ち溢れている。



ヤノトガリハナバチ



エゾオナガバチ?

ヒメバチ科 エゾオナガバチ? ヒメバチ科 sp A

このヒメバチの仲間は、種によって決まった寄生種を選び、キバチ類やスズメガ類の幼虫などに卵を産みつけ、内部寄生をする。寄主が蛹化すると成長を始め、身体を食い尽くして大きくなる。鳥の研究者としては、ここまでやるのか!と驚嘆してしまう。ハチ類の生態は私には理解に余るくらいだ!



ヒメバチ科 sp

ハバチ科 ハグロハバチ ハバチ科 sp B

これらのハバチの仲間は、いずれも植物の葉を食べて成長する。幼虫はイモムシに似て、ガの幼虫のようだ。種ごとに好みの植物があり、カブラハバチはダイコンなどの十字花植物、ハグロハバチはイタドリやスイバを食する。



ミフシハバチ科 sp



ニホンカブラハバチ



ハグロハバチ



ハバチ科 sp B

ミツバチ科 シロスジヒゲナガハナバチ

ハナバチの仲間は花の蜜を求めて訪花する。この種はムラサキツメクサやカラスノエンドウを好むという。嗜好があり、顕花植物はハチ類によって共進化をしてきた。



シロスジヒゲナガハナバチ

ミツバチ科 ダイミョウキマダラハナバチ

腹部に独特な模様があり1cmを超す、一見するとミツバチとは見えない。キマダラハナバチ属でハナバチの巣に入り卵を産み、労働寄生をする。



ダイミョウキマダラハナバチ

ミツバチ科 セイヨウミツバチ

真社会性のハチで、ヨーロッパから養蜂目的で輸入された。養蜂で使われているハチはこの種である。腹の前半は橙色で、先端は黒いのが特徴。性質はおとなしく、春に水辺に給水にきているのをよく見かける。分封した数千匹の個体が塊になって林縁の枝に集まっていることもある。養蜂家の方は女王蜂を見つけて巣箱に誘導するようだ。巣箱がスズメバチに襲われると、巣箱入り口でかみ殺された個体が山のようになり、全滅させられる。ニホンミツバチのように天敵に対する防御は無く、野生化はできないようだ。



セイヨウミツバチ



ニホンミツバチ

ミツバチ科 ニホンミツバチ

日本の在来種で木の洞、社の隙間などに巣を造る。腹部は全体に黒い縞模様がある。スズメバチなどに巣が襲われることがあるが、立ち向かいスズメバチを多くの個体で包み、体温を上げて殺すような防御行動も発達している。

昆虫類 脈翅目

陸生のカゲロウ類で、ヨツボシクサカゲロウの卵はウドンゲ(優曇華)と言われ、梵語 udumbara(優曇波羅)^{しょうずい}の略で、祥瑞の意味だという。3000年に一度花が咲く、極めて珍しいことだという。吉兆とする人や、凶兆と教えられた人もいる。でも、この卵は、時々には目にすることがある。調査では下表の種が出現した。

調査での出現種

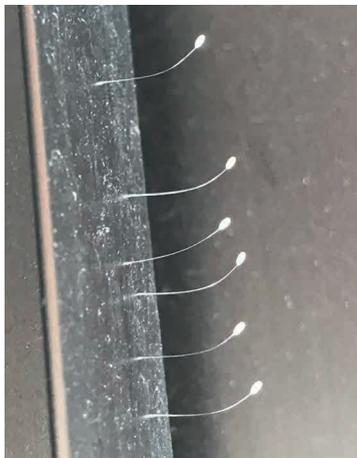
群No	分類群	科名	種名
1	脈翅目	ウスバカゲロウ科	ホシウスバカゲロウ (アリジゴク)
2		ヒロバカゲロウ科	ヒロバカゲロウ科 sp
3		クサカゲロウ科	クサカゲロウ科 sp

ウスバカゲロウの仲間？

草の上や枝などに背中に綿のようなものを着けて歩いているのをよく見かけるが、ホシウスバカゲロウ (アリジゴク) のような乾いた地表に噴火口のような罫は造らない。



クサカゲロウの仲間の幼虫？



(参考) 優曇華の花

昆虫類 鞘翅目

調査では一番多くの科が出現する昆虫の分類群である。この中には昆虫でも子供に人気のあるカブトムシやクワガタムシも含まれる。下記の表の 40 科 239 種が出現し、オサムシ科、カミキリムシ科、コガネムシ科、ハムシ科などの種数が多く、種同定は難しい。

調査での出現種		
群No	科名	種名
1	アカハネムシ科	ヒメアカハネムシ
2	エンマムシ科	エンマムシ科 sp
3		コエンマムシ
4	オオクスイ科	ヨツボシオオクスイ
5	オオキノコムシ科	ミヤマオビオオキノコムシ
6	オサムシ科	ウスケゴミムシ
7		コガシラナガゴミムシ
8		セアカヒラタゴミムシ
9		オオマルガタゴミムシ
10		オオマルナガゴミムシ
11		オサムシ科 sp
12		キボシアオゴミムシ
13		クビアカツヤゴミムシ
14		クロナガオサムシ
15		スジアオゴミムシ
16		ツヤアオゴモイクムシ
17		ナガクロツヤヒラタゴミムシ
18		ナガヒョウタンゴミムシ
19		ヒメツヤマルガタゴミムシ
20		ミイデラゴミムシ
21		マルガタゴミムシ
22		アオオサムシ
23		アカガネオオゴミムシ
24		アトモンアオゴミムシ
25		エサキオサムシ
26		オオホソクビゴミムシ
27		オオヨツボシゴミムシ
28		キアシマルガタゴミムシ
29		キンナガゴミムシ
30		クビボソゴミムシ
31		クロオサムシ

調査での出現種		
群No	科名	種名
32	オサムシ科	セアカゴミムシ
33		ノグチアオゴミムシ
34		ハネアカクビナガゴミムシ
35		ヒメマイマイカブリ
36		マルガタナガゴミムシ
37		マルヒメゴモクムシ
38	オトシブミ科	ハイイロチョッキリ
39		ヒメクロオトシブミ
40		ルリオトシブミ?
41	カツオブシムシ科	ヒメマルカツオブシムシ
42	カミキリムシ科	アトジロサビカミキリ
43		オオヨツボシハナカミキリ
44		カミキリムシ科 sp
45		キスジトラカミキリ
46		キボシカミキリ
47		キマダラカミキリ
48		クワカミキリ
49		ゴマダラカミキリ
50		シラホシカミキリ
51		トラカミキリの仲間 sp
52		ナガゴマフカミキリ
53	ノコギリカミキリ	
54	ヒメクロトラカミキリ	
55	ヒメトラカミキリ	
56	ホソカミキリ	
57	ヤツメカミキリ	
58	ヨスジハナカミキリ	
59	ラミーカミキリ	
60	カミキリモドキ科	モモフトカミキリモドキ
61		アオカミキリモドキ
62		カミキリモドキ科 sp
63		クロカミキリモドキ?

調査での出現種		
群No	科名	種名
64	カミキリモドキ科	キアシカミキリモドキ
65		ルリカミキリモドキ
66	ガムシ科	コガムシ
67		ヒメガムシ
68	キノコムシ科	キノコムシ科 sp
69	クチキムシ科	カツオガタクチキムシ
70	クロヒラタヨコバイ科	クロヒラタヨコバイ
71	クワガタムシ科	コクワガタ
72		ノコギリクワガタ
73	ケシキスイ科	ヨツボシケシキスイ
74		アカマダラケシキスイ
75		ケシキスイ科 sp
76		ツツオニケシキスイ
77	ゲンゴロウ科	ヒョウモンケシキスイ
78		コシマゲンゴロウ
79		ハイイロゲンゴロウ
80		キベリマメゲンゴロウ
81	ゲンゴロウ科	ゲンゴロウ科 sp
82		クロマメゲンゴロウ
83	コガネムシ科	コアオハナムグリ
84		センチコガネ
85		マメコガネ
86		カナブン
87		カブトムシ
88		クロカナブン
89		マルエンマコガネ
90		アオハナムグリ
91		アオカナブン
92		カタモンコガネ
93		クロコガネ
94		クロハナムグリ
95		コガネムシ
96		シロテンハナムグリ
97	セマダラコガネ	
98	ツヤコガネ	
99	トゲヒラタハナムグリ	
100	ヒメサクラコガネ	
101	ヒメトラハナムグリ	
102	ヒメビロードコガネ	
103	ヒラタアオコガネ	
104	ビロードコガネ	

調査での出現種		
群No	科名	種名
105	ゴミムシダマシ科	コスナゴミムシダマシ
106		キマワリ
107		ゴミムシダマシ科 sp
108	コメツキムシ科	サビキコリ
109		ヒメサビキコリ
110		ベニコメツキ
111		アオドウガネ
112		アカアシオオクシコメツキ
113	コメツキムシ科	オオクロクシコメツキ
114		キアシクロムナボンコメツキ
115		クシコメツキ?
116		クロツヤハダコメツキ
117		クロクシコメツキ?
118	コメツキムシ科	コメツキムシ科 sp
119		ヒメクロコメツキ
120		ホソキコメツキ?
121		ホソサビキコリ
122	シデムシ科	ヒメヒラタシデムシ
123		ヒラタシデムシ
124		ヨツボシモンシデムシ
125	ジョウカイボン科	オオヒラタシデムシ
126		ジョウカイボン
127		クビアカジョウカイ
128		マルクビジョウカイ
129		ウスイロクビジョウカイ
130		キンイロジョウカイ
131		クロジョウカイ
132		ジョウカイボン科 sp
133		セボシジョウカイ
134	ヒメジョウカイ	
135	ジョウカイモドキ科	ツマキアオジョウカイモドキ
136	ゾウムシ科	コフキゾウムシ
137		コナラシギゾウムシ
138		マダラアシナガゾウムシ
139		オジロアシナガゾウムシ
140		カシワクチブトゾウムシ?
141		カツオゾウムシ
142	コシジロアシナガゾウムシ	

調査での出現種		
群No	科名	種名
143		シロコブゾウムシ
144		ゾウムシ科 sp
145	ゾウムシ科	トホシオサゾウムシ
146		ハスジカツオゾウムシ
147		ヒメシロコブゾウムシ
148		ホソアナアキゾウムシ?
149		クズノチビタマムシ
150		ウグイスナガタマムシ
151		クリタマムシ
152	タマムシ科	チビタマムシの仲間 sp
153		トゲフタオタマムシ?
154		ヒシモンナガタマムシ
155		ホソアシナガタマムシ
156		ムネアカナガタマムシ
157	ツチハンミョウ科	マメハンミョウ
158	テントウダマシ科	ヨツボシテントウダマシ
159		ナナホシテントウ
160		テントウムシ
161		ウスキホシテントウ
162		オオニジュウヤホシテントウ
163		カメノコテントウ
164		キイロテントウ
165	テントウムシ科	コカメノコテントウ
166		シロジュウゴホシテントウ
167		ジュウシホシテントウ
168		テントウムシ科 sp
169		トホシテントウ
170		ニジュウヤホシテントウ
171		マクガタテントウ
172		ヒメカメノコテントウ
173		ムーアシロホシテントウ
174	ナガヒラタムシ科	ナガヒラタムシ
175	ハナノミ科	クロハナノミ
176		ハネカクシ科 sp
177	ハネカクシ科	アマガタハネカクシ (アオハ)
178		キンボシハネカクシ
179	ハムシ科	イチモンジカメノコハムシ

調査での出現種		
群No	科名	種名
180		ウリハムシ
181		オオヨモギハムシ
182		コガタリリハムシ
183		ジンガサハムシ
184		ハムシ科 sp
185		クロウリハムシ
186		クロバヒゲナガハムシ
187		アトボシハムシ
188		アカイロマルノミハムシ
189		イタドリハムシ
190		オオアカマルノミハムシ
191		オオルリハムシ
192		カタビロハムシ?
193		カミナリハムシ
194		キバラヒメハムシ
195		クビボソハムシ
196		クロボシツツハムシ
197		クワハムシ
198		ジュウシホシツツハムシ
199		スギナハムシ
200	ハムシ科	ズグロアカハムシ
201		ダイコンハムシ
202		チャイロサルハムシ?
203		チャバナツヤハムシ
204		ツマキクビボソハムシ
205		トビサルハムシ
206		ドウガネサルハムシ
207		トホシクビボソハムシ
208		ナガハムシ
209		ネギオオアラメハムシ
210	ノミハムシの仲間 sp	
211		ハッカハムシ
212		バラルリツツハムシ
213		ヒメジンガサハムシ
214		ヒゲナガルリマルノミハムシ
215		フジハムシ
216		ブタクサハムシ
217		フタホシオオノミハムシ
218		ムナキルリハムシ
219		ムネピロアカハネムシ
220		ヤナギルリハムシ

昆虫類

調査での出現種		
群No	科名	種名
221		ヤマイモハムシ
222		ヨモギハムシ
223		ルリクビボソハムシ?
224		ルリバナナガハムシ
225	ハムシ科	ルリハムシ
226		ルリヒゲナガハムシ?
227		ルリマルノミハムシ
228		ルリマルハムシ
229		ルリミノハムシ
230	ハムシダマシ科	ハムシダマシ

調査での出現種		
群No	科名	種名
231		コハンミョウ
232	ハンミョウ科	トウキョウヒメハンミョウ
233	ヒゲナガゾウムシ科	ヒゲナガゾウムシ科 sp
234	ヒメゲンゴロウ科	ヒメゲンゴロウ亜科 sp
235	ヒラタドロムシ科	ヒラタドロムシ
236	ベニボタル科	ベニボタル科 sp
237		オバボタル
238	ホタル科	クロマドボタル
239		ムネクリイロボタル



コハンミョウ

ハンミョウ科 コハンミョウ

開けた地面のある場所に生息する。この調査でも水田の間にある道幅2mの地上にいた。ハンミョウ類は人が歩く前を飛んで逃げ、道を教えているような行動で、道教えとも言われている。体色のカラフルで美しいハンミョウとは違い、地味で目立たない。幼虫は地上の穴に潜み、近くを通る虫を素早く捕え、穴へ引き込む。幼虫は鬼虫と呼ばれる。



トウキョウフメハンミョウ

ハンミョウ科 トウキョウヒメハンミョウ

市内で見られたのは前述のコハンミョウと、この種だけであり、前者より少し小さい。生息場所は暗い林の中の道で、居るのが気づかないほどである。地上や木の葉の上に止まり、静止している。肉食なので、小さくても顔は精悍だ。

オサムシ科 エサキオサムシ

夜行性で林内の地上を徘徊して、ミミズやカタツムリなどを食べる。体長は3cm、時には昼間も活動し、動きも活発で早い。紫色がかかった身体は美しく輝く。



エサキオサムシ

オサムシ科 ヒメマイマイカブリ

名前のごとく、カタツムリを食べる。4cm くらいの大きさで、首から前胸にかけて細長く、カタツムリの殻の中に頭を突っ込んで、殻の奥まで残さず食べてしまう。



ヒメマイマイカブリ

オサムシ科 アトモンアオゴミムシ

地上を徘徊するが動きは早く、すぐに草やゴミの下に隠れてしまう。体長は2cm くらい、同じような模様の種も多く、名前を知るのが困難だ。



アトモンアオゴミムシ

オサムシ科 マルガタナガゴミムシ

ゴミムシの仲間には沢山の種類がいて、同じような形をしているものも多い。夜行性のものが多く、普通は食肉性で、土の中に隠れていることも多い。調査では瓶の底に腐った肉を少量入れて、地面に埋めるベイトトラップなどで採集するが、現在ではタヌキなどが増加して、トラップを掘り出され、折角入った虫ごと中身を食べられてしまい、この方法では調査ができなくなってしまった。



マルガタナガゴミムシ

シデムシ科 オオヒラタシデムシ

シデムシの仲間には国内には 35 種程度いる。このオオヒラタシデムシはごく普通に見かける種で、ミミズや小動物の死骸などに来て腐肉を食べる。



オオヒラタシデムシ

クワガタムシ科

子供には人気のある仲間で、この調査では大型のノコギリクワガタと、小型の普通種であるコクワガタが見られた。両種ともに樹液なので樹木に来ていた。樹液はクヌギやコナラなどのブナ科の樹木から出ていることが多いが、河原ではアカメヤナギの木が樹液を出すので、そこで目撃することも多い。



ノコギリクワガタ



コクワガタ

コガネムシ科

コガネムシの仲間は光沢のあるものが多い。多くの種が植物食で葉を食べる。コガネムシは童謡にもなっているが、翅が光る由か。逆の外来種になるがアメリカに侵入して植物を食べ荒らし大被害を与えたマメコガネが害虫としてとても有名である。

これらコガネムシ類は幼虫の時期には土の中で植物質を食べて育つ。カブトムシもコガネムシの仲間です。子供には人気者である。最近はカブトムシも減ってしまったが、農地で腐葉土を作らなくなってしまっているためかもしれない。この調査では2009年の滑川調査区の東平の堤防脇のヤナギ類の林で、数百匹のカブトムシがいるのを見た。枝に数十匹が着いていて、子供の頃から今までの60年間で一番多くのカブトムシのいる光景で驚嘆した。調査中に会った小学生2人も虫かごに入りきれないほどのカブトムシを持っていたが、とても嬉しそうだった。それから8年後、2017年の調査ではカブトムシは1匹も見られなかった。



コガネムシ



マメコガネ



ビロードコガネ



カブトムシ

タマムシ科

輝き虹色をしている美しい中型のタマムシが有名だが、地味な色をした種や、数ミリの小さい種など多様な種がいる。成虫は暖かい時期に活発に動くが、幼虫時は樹木の幹の中や枝などに材を食べながら成長する。小型のチビタマムシの仲間の幼虫は葉の中に潜み、葉肉を食べる。



タマムシ (体長3～4cm)



クズノチビタマムシ (体長0.3～0.4cm)



ムネアカナガタマムシ (体長1cm前後)

コメツキムシ科

小型の虫で、多くの似た種を含み、名前がなかなか見つけられない。林縁の植物の葉の上や、地上などで見られる。時には家の中にも灯りに誘引され飛来する。葉の上にいる虫を触ると、足をたたみ動かなくなり、地上に落ちて逃げる。身体を引っくり返しておくと、パチッと頭と胴を使って弾き飛び、起き上がり動き出す。ただし、そんなことができない種類もいる。



サビキコリ



アカアシオオクシコメツキ?

ホタル科

ホタルの仲間はゲンジボタルなど発光器をもち光るものから、オバボタルのように光らない種もいる。ホタル類の羽は柔らかく軟鞘類と呼ばれる。今回の調査ではゲンジボタルやヘイケボタルは記録できなかったが、市内の地元の人への聞き取りでは、いくつか場所で発生がある。7月の夜に市民の森の北側にある谷津では発生をしているのを見たが、個体数は多くないようだった。

ホタルの仲間だが、オバボタルとムネクリイロボタルは光らない。市民の森や高坂の宮鼻地区で確認したが、個体数は多くはなかった。



オバボタル



ムネクリイロボタル

ゲンジボタルは体長 15mm 前後だが、ヘイケボタルは体長 8 mm 前後で前種の半分程度の大きさである。発光器の大きさも差がありゲンジボタルは大きく強く光るが、ヘイケボタルは小さく弱い。市内では6月下旬にはゲンジボタルの成虫の発生が始まり、7月初めには両種が見られる。胸部の赤い部分の黒い模様に違いがある。



ゲンジボタル



ヘイケボタル



ジョウカイボン

ジョウカイボン科 ジョウカイボン

ジョウカイボンの仲間もホタル類と同じように柔らかい外骨格を持つ。ジョウカイボンは普通種で個体数も多く、体長は15mm前後、春から夏にかけて出現する。食肉性で他の昆虫類を捕えて食べる。

ケシキスイ科 ヨツボシケシキスイ

樹木の樹液の出ている場所に見られる。体長は1cm前後で鞘翅^{さやばね}の赤い模様が目立つ。まったく違った科でキノコ類を食べるキノコムシも同じような模様をしていて、類似に驚く。



ヨツボシケシキスイ



ミヤマオビオオキノコムシ

テントウムシ科

テントウムシの仲間には1cm前後の体長のあるカメノコテントウから3~4mmのヒメカメノコテントウまで大きさに差がある。身近な昆虫で普通に見られ、太陽の光が充分にある昼間に活発に活動する。アブラムシ類を食べるナナホシテントウやジャガイモなどのナス科の作物の葉を食べる害虫のニジュウヤホシテントウ、ウドンコ病菌をたべるキイロテントウなど様々な食性をもっている。この調査では11種ものテントウムシが見られ、鞘翅^{さやばね}の模様もいろいろである。またテントウムシ(ナミテントウ)のように鞘翅^{さやばね}の色と黒または赤い点に変異幅があり、別種のように見えるものもある。



カメノコテントウ



ナナホシテントウ



ヒメカメノコテントウ



テントウムシ



ニジュウヤホシテントウ



キイロテントウ



トホシテントウ



シロジュウゴホシテントウ



ヨツボシテントウダマシ

テントウダマシ科 ヨツボシテントウダマシ

体長は5mmくらいで小さく、畑の腐った野菜の下によく見られる。テントウムシに似るが別の科で、幼虫は土の中で菌類を食べて成長する。



キマワリ

ゴミムシダマシ科 キマワリ

体長は16～20mm、朽木など樹木の樹皮上でよく見つかる。朽木を食べるおとなしい虫である。

カミキリムシ科

カミキリムシの仲間は樹木の幹や枝の内部に住み、樹木に被害を与える種類が多い。しかし、その形態は多様性に富み、50mmを超えるシロスジカミキリのような大型のものから10mm以下の小型の種もある。また触覚の長い種や体色の地味なサビカミキリ類から、綺麗なハナカミキリの類、蜂によく似たトラカミキリの仲間まで、多種多様で虫好きの人には人気が高い。



アトジロサビカミキリ

カミキリムシ科 アトジロサビカミキリ

サビカミキリの仲間は、枯木や伐採された木に卵を産み、幼虫は材を食べて大きくなる。成虫の出現は5月から6月、写真の種は2cm以下と小さい。

カミキリムシ科 キボシカミキリ

幼虫はイチジクやクワなどの生木に侵入して食害する。温暖な地方に生息していたが、分布域が北上している。



キボシカミキリ

カミキリムシ科 ゴマダラカミキリ

ミカンの木に産卵して幼虫は大きくなる。ミカン農家にとって大害虫で、賞金もかかり捕獲もされると聞いた。光沢のある黒い鞘翅さやばねに白い斑点が入る。



ゴマダラカミキリ

カミキリムシ科 シラホシカミキリ

1 cm 前後の小さなカミキリムシで、大谷瓦窯跡の林の広葉樹の葉の裏に着いていた。市内の調査で出会ったのはこの1回だけ。リョウブやアジサイなどの生葉の葉脈部を食べる。



シラホシカミキリ

カミキリムシ科 ヤツメカミキリ

1.5cm 前後の華奢な種で、市民の森の道路沿いの葉の上にあった。ヤマザクラやウメなどの老木や枯木に集まる。



ヤツメカミキリ

カミキリムシ科 ヨスジハナカミキリ

いきなりブーンと飛来してくると、スズメバチのようで身を引いてしまうが、止まればカミキリムシ。ハナカミキリの仲間ではミズキなどの花の上に見られることも多い。体長は 20mm 前後。



ヨスジハナカミキリ

ハムシ科

植物につく 1 cm 以下の小さな甲虫の仲間、種ごとに食べる植物が決まっている。形や色が多様で、光沢をもっている種が多く、宝石のような虫だが、作物を害する種もいる。

アトボシハムシはアマチャヅルやカラスウリなどを食べる。ウリハムシは、ウリ科の植物に来て葉を食害する。キュウリ、カボチャ、メロンなどの農業害虫。近寄ると飛んで逃げ足が早い。ヤマイモハムシは体長は 5.5mm 前後、ヤマノイモの葉を食べ、茎に卵を産む。



アトボシハムシ



ウリハムシ



ヤマイモハムシ



ノミハムシ亜科 sp

ハムシ科 イチモンジカメノコハムシ

初めて見たときには亀のような変な虫と驚いた。外郭は透明で、中央部の身体は金色に輝いている。ムラサキシキブなどクマツヅラ科の植物を食べる。



イチモンジカメノコハムシ

ゾウムシ科

ゾウムシの仲間は日本に 1000 種を超える種がいるという。しかし、道端の調査路の多かったこの調査では 10 種 + 名前不明の数種が目撃されただけだった。口吻が長く伸び、象を思わせるような形態、鞘翅^{さやばね}も硬く堅固で、まさに 6 本の脚を持つ小さな象である。頻繁に見られたのはクズの葉や茎についていたコフキゾウムシと、オジロアシナガゾウムシ、ヒメシロコブゾウムシの 3 種であった。これらの虫は触ると脚をたたみ、食事をしていた場所から地上へポロツと落ちてしまい、見つからなくなる。捕食者に対しての有効な行動であるのだろう。



ヒメシロコブゾウムシ



コフキゾウムシ



ヒメクロオトシブミ



ヒメクロオトシブミの巣

オトシブミ科 ヒメクロオトシブミ

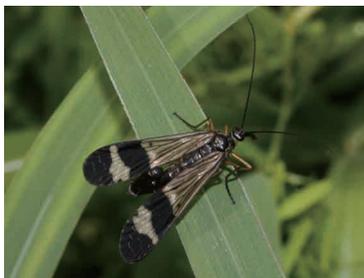
オトシブミと優雅な名前をもつ虫で、5月に出現して新緑の葉を巻いて、地上に落とす。落としたものは文ではなく、卵を産みこんだ揺籃ようらんで、幼虫がその籠の葉を食べ、地上に落とす種類から、枝に吊るしておく種もある。また、枝に穴を開けて卵を産みこむチョッキリのような仲間もある。国内には85種がいるが、この調査ではヒメクロオトシブミが確認できただけだった。

昆虫類 シリアゲムシ目

今回の調査では下表の2種を確認した。市内ではこの2種だけが見られ、他の種は分布していないようだ。シリアゲムシは求愛するときには、雄は雌に獲物の贈り物を用意する。ヤマトシリアゲが先に出現し、夏以降にベッコウシリアゲが見られた。

調査での出現種

群No	目名	科名	種名
1	シリアゲムシ目	シリアゲムシ科	ヤマトシリアゲ
2			ベッコウシリアゲ



ヤマトシリアゲ



ベッコウシリアゲ

昆虫類 双翅目

アブ類、ハエ類、ガガンボ類、カ類などを含む分類群である。種数も多く、図鑑類も整っていないので、分類は専門家でないとなし。しかし、ハエ類やカ類は衛生昆虫であり、人間の生活に合わせるように生活しているものも多く、身近であるが、ちょっとやっかいな昆虫である。またアブの仲間は蜂によく似ているが、双翅目の仲間は前翅の2枚だけで、後翅は小さく変形してほとんど見えない。ちなみにハチの仲間、膜翅目は前翅2枚、後翅2枚の4枚の大きな羽を持っている。調査では下表の種が出現した。

調査での出現種		
群No	科名	種名
1	アシナガバエ科	アシナガバエ科 sp
2		マダラアシナガバエの仲間 sp
3	アシナガヤセバエ科	ホシアシナガヤセバエ
4	アブ科	ウシアブ?
5		ゴマフアブ?
6		キンイロアブの仲間 sp
7	イエバエ科	イエバエ科 sp
8		フタスジイエバエ
9	カ科	カ科 sp
10		ヒトスジシマカ
11	ガガンボ類	ガガンボ(類) sp
12		ガガンボ科 sp
13		クリウジガガンボ?
14		クロクリウジガガンボ?
15		ハスオビガガンボ?
16		ベッコウガガンボ?
17		ミカドガガンボ?
18		Eriocera sp. EB ?
19		Tipula sp ?
21	クロバエ科	キンバエ?
22		キンバエの仲間 sp
23		ケブカクロバエ?
24		トウキョウキンバエ?
25		オオクロバエ?
26		オビキンバエ?
27		キンバエ属 sp

調査での出現種		
群No	科名	種名
28	クロバエ科	クロバエ科 sp
29		シマアブバエ?
30		ツマグロキンバエ?
31	ケヨソイカ科	アカケヨソイカ
32	コシボソガガンボ科	コシボソガガンボ科 sp
33	シギアブ科	クロシギアブ
34		シギアブ科 sp
36		ヤマトシギアブ?
37	シマバエ科	シモフリシマバエ
38	ショウジョウバエ科	ショウジョウバエ科 sp
39	チョウカ科	イシハラクロチョウカ
40		イシハラチョウカ
41		チョウカ科 sp
42	ツヤバエ科?	クロツヤバエ?
35	ツリアブ科	ピロードツリアブ
43		コウヤツリアブ
44		クロバネツリアブ
45	トゲハネバエ科	トゲハネバエ科 sp
46	ニクバエ科	シリアカニクバエ?
48		ニクバエ科 sp
49		シリグロニクバエ?
50		センチニクバエ
51	ハナアブ科	オオハナアブ
52		ハナアブ
53		ヒメヒラタアブの仲間 sp
54		ヒラタアブの仲間 sp

調査での出現種		
群No	科名	種名
55		ホソヒラタアブの仲間 sp
56		シマハナアブ
57		シマアシフトハナアブ
58		エゾコヒラタアブ
59		オオハナアブ
60	ハナアブ科	オオヒラタアブ
61		キンアリスアブの仲間 sp
62		シマアシフトハナアブ?
63		ハナアブ科 sp
64		スジキフタモンハナアブ?
65	ハネオレバエ科	クロハネオレバエ
66	ヒゲブトコバエ科	クロメマトイ
67	ブユ科	ブユ科 sp
68	フルカ科	ヒメセアカフルカ
69	ベッコウバエ科	ベッコウバエ
70	ホソカ科	ホソカ科 sp
71		クロツヤホソバエ?
72	ホソバエ科	ホソバエ sp
73	マダラバエ科	マダラバエ科 sp
74	ミズアブ科	コガタノミズアブ?
75		コウカアブ

調査での出現種		
群No	科名	種名
76	ミズアブ科	コガタノミズアブ
77		ミズアブ科 sp
78	ミバエ科	ミバエ科 sp
79		アオメムシヒキ
80		オオイシアブ
81		シオヤムシヒキ
82	ムシヒキアブ科	トラフムシヒキ
83		マカリケムシヒキの仲間 sp
84		ムシヒキアブ科 sp
85	ヤチバエ科?	ヒゲナガヤチバエ?
86		アシナガハリバエ?
87		コガネオオハリバエ?
88		コンボウハリバエ?
89	ヤドリバエ科	シロオビハリバエ?
90		ブランコヤドリバエ?
91		マダラアシナガバエ?
92		ヨコジマオオハリバエ?
93		ヤドリバエ科 sp
94	ユスリカ科	アカムシユスリカ?
95		ユスリカ科 sp

ハナアブ科 ハチモドキハナアブの仲間？

図鑑と首っ引きで調べたが、名前が判らない。形態から近そうな仲間だろうと推測したが、誰か調べて教えて欲しい。形は蜂だが、お尻に針を持たないアブだ。



アブ類 sp

ハナアブ科 オオハナアブ

花に来るアブの仲間、比較的大型の種である。蜂のようにも見えるが羽は前翅が左右の2枚だけ。それにお尻には針は無いので刺すことは無い。また口吻は蜜等を舐めるもので、いたって優しい種である。



オオハナアブ

ムシヒキ科 シオヤムシヒキ

ムシヒキアブの仲間は他の昆虫を捕食する。獲物は抱え込み口吻を突き刺して体液を吸う。雄はお尻に白い毛があるが、雌には無い。



シオヤムシヒキ

ツリアブ科 ビロードツリアブ

早春の林に出現する。道端の陽だまりでのんびり飛んでいる。長い口吻と身体全体を毛で覆っている姿は独特。



ビロードツリアブ

ヤセバエ科 ホシアシナガヤセバエ

ヤナギやクヌギ、コナラなど樹液の出る場所で見られる 15mm 前後の細長いハエ。クワガタ獲りに行く子供には馴染み深いはずだが、目的物でないで見過ごされる。よく見ると顔つきは宇宙人で脚が長く、魅力的な格好だ。



ホシアシナガヤセバエ

アシナガバエ科 マダラアシナガバエの仲間

葉の上に見られる 5mm 前後の小さなハエで、素早く動く。



マダラアシナガバエ

クロバエ科 トウキョウキンバエ

青緑に輝く身体は美しいが、この姿に美しいと賛辞を送る人は少ないかも。ハエは衛生昆虫であるがために審美的には見づらいが、その生命力と活動力は驚嘆に値する。



トウキョウキンバエ

クロバエ科 クロバエ科 sp

このハエも金色に輝く身体を持っている。やはり美しいと賛辞を送りづらいが、世の中にはこのハエに魅了される人もいるのだろう。



クロバエ科 sp

昆虫類 鱗翅目・ガ類

この調査では表のように 25 科 88 種 (sp 含む) を確認した。国内に生息するガ類は 5500 種あまりあるが、ガ類の活動は夜間である種がほとんどである。今回の調査では捕虫網による捕獲や、夜間の灯火採集などは行っていないことや、昼間、ガ類は葉の裏側に隠れていて、撮影しようとする、素早く逃げてしまう。そのため撮影は困難で、確認作業ができない。また撮影できたものの未同定になっているものも多く、一部の種しか分類できていない。

ガ類と蝶類は同じ鱗翅目に分類される近縁種のグループで、蝶類は触覚が線状で、昼間に活動する。ガ類の触覚は房状あるいは櫛状など太い種が多く、夜間に活動する種が多い。調査では以下の種の確認ができただけである。

調査での出現種		
No	科名	種名
1	イカリモンガ科	イカリモンガ
2	イボタガ科	イボタガ
3	イラガ科	イラガ
4		ヒロヘリアオイラガ
5	カイコガ科	クワコ
6	カギバガ科	カギバガ科 sp
7	カノコガ科	カノコガ
8		キハダカノコ
9	カレハガ科	カレハガ科 sp
10	シャクガ科	ウスオビヒメエダシャク
11		ウスキオエダシャク
12		ウスバフユシャク
13		ウスベニスジヒメジャク
14		オオシロエダシャク
15		キリバエエダシャク
16		ゴツマウスグロエダシャク
17		シャクガ科 sp
18		チャバネフユエダシャク
19		ヒトスジマダラエダシャク
20		ピロードナミシャク
21		フタナミトビヒメシャク
22		ベニスジヒメエダシャク
23		ユウマダラエダシャク
24		ヨツメアオシャク
25		ヨモギエダシャク
26	シャチホコガ科	オオトビモンシャチホコ

調査での出現種		
No	科名	種名
27	シャチホコガ科	オオモクメシャチホコ
28		ヒメシャチホコ
29	スカシバガ科	モンクロシャチホコ
30		ヒメアトスカシバ
31	スカシバガ科 sp	
32	スズメガ科	オオスカシバ
33		スズメガ科 sp
34		セスジスズメ
35		ホシヒメホウジャク
36	セミヤドリガ科	ハゴロモヤドリガ
37	ツバメガ科	ギンツバメ
38	トガリホンガ科	トガリホンガ科 sp
39	ドクガ科	ドクガ科 sp
40		マイマイガ
41	ドクガ科	モンシロドクガ
42		マメドクガ
43		オオヤママイマイ
44		タイワンキドクガ
45	トリバガ科	シロフクトリバ?
46	ヒゲナガガ科	ヒゲナガガ科 sp
47		キオビクロヒゲナガ
48		クロハネシロヒゲナガ
49	ヒトリガ科	アメリカシロヒトリ
50		アカハラゴマダラヒトリ
51		ウンナンヨツボシホソバ
52		オオシロヒトリ

調査での出現種		
No	科名	種名
53		キハラゴマダラヒトリ
54		シロヒトリ
55	ヒトリガ科	ヒトリガ科 sp
56		ムジホソバ
57		ゴマダラベニコケガ
58	マイコガ科	セグロベニトゲアシガ
59		キシジホソマダラ
60	マダラガ科	ブドウスカシクロバ
61		ホタルガ
62		ルリハダホソクロバ
63	マドガ科	マドガ
64		ミノガ科 sp
65	ミノガ科	オオミノガ
66		クロツヤミノガ
67		チャミノガ
68		シロオビノメイガ
69	メイガ科	ミツシロモンノメイガ
70		モモノゴマダラメイガ

調査での出現種		
No	科名	種名
71		イチジクキンウワバ
72		ウストガリキリガ
73		オオモンクチバ
74		オオベニシタバ
75		キシタバ
76		コシロシタバ
77		シロシタバ
78		ツマグロクチバ
79	ヤガ科	ツメクサガ
80		ナカグロクチバ
81		ハスモンヨトウ
82		ヒメエグリバ
83		ホソオビアシプトクチバ
84		ホソバセダカモクメ
85		リンゴケンモン
86		ヤガ科 sp
87		フクラスズメ
88	ヤママユガ科	オオミズアオ



イカリモンガ

イカリモンガ科 イカリモンガ

昼間に活動する種で、触覚も線状で、蝶類に見える。初めて見たときには、蝶類の図鑑を調べ、見つからないので、新しい種を発見したと思ってびっくりした記憶がある。



ギンツバメ

ツバメガ科 ギンツバメ

5月頃に成虫は出現する。植物の葉の表面に静止していることが多いので、見かけることは多い。夜行性だが、昼間も飛ぶことがある。

ヒトリガ科 ゴマダラベニコケガ

翅を開くと3cmくらいで、5月から6月に出現し、後、数回さらに発生する。ヒトリガ科の幼虫は長い体毛を持つものが多く、活発に動く。コケガ亜科のこの蛾の幼虫は地衣類を食べるといふ。成虫は夜間に活動し、昼間は飛ばない。



ゴマダラベニコケガ

ヒゲナガガ科 クロハネシロヒゲナガ

イネ科の草のある林縁部で初夏の頃に現れ昼間に活動する。白く長い触角（ヒゲ）をなびかせて飛翔するが、やはり長いヒゲは邪魔なように見える。幼虫は落ち葉の中、蓑を作り生活する。



クロハネシロヒゲナガガ

スカシバガ科 ヒメアトスカシバ

スカシバガの仲間は蜂によく似ている。鱗翅目の昆虫は鳥に捕食されることが多く、針を持つ蜂に擬態して生存率を高めている。



ヒメアトスカシバ

スズメガ科 ホシホウジャク

秋に出現して停空飛翔をしながら長い口吻を伸ばし花の蜜を吸う。



ホシホウジャク

ヤガ科 フクラスズメ

カラムシの葉や茎に多くの幼虫がついて、摂食しているのをよく見かける。幼虫は派手で大きく目立つので、見覚えのある人も多いのではないかな。幼虫は目立つのだが、成虫になると地味でどうにも繋がらない。



フクラスズメ成虫（左）と幼虫（右）

モンシロドクガ幼虫

いかにも、「僕は毒のある毛虫です」と主張しているような派手なケムシである。バラ科やブナ科の植物についていて、うっかり触ってしまい、辛く痛いような痒み^{かゆ}のドクガに刺された経験のある人は多いでしょう。成虫は幼虫とは違って白一色で地味。



モンシロドクガ

カイコガ科 クワコ幼虫

クワにつくイモムシで蚕の原種と考えられている。この幼虫はまだ中齢で、大きくなるとカイコに近いような形態になる。



クワコ幼虫

シャチホコガ科 ヒメシャチホコ幼虫

シャシホコの名前の由来は幼虫の姿なのか？なんと魅力的な姿だろうか。ハギ類やバラ科の葉を食害する。このときはサクラの枝で見つかった。尾を立てて威嚇するような姿勢で動かずにいた。成虫は淡褐色で茶色の斑点があるが、それほど目立たない。蛾の仲間には幼虫に魅力のある種も多い。



ヒメシャチホコ幼虫

昆虫類 鱗翅目・蝶類

市内で見られる鱗翅目の蝶類は、平地から丘陵地に生息する一般的な種の多くが出現する。この調査で確認したのは5科64種であり、その中には最近になって分布をするようになったツマグロヒョウモン、アカボシゴマダラ、ホソオチョウの3種も含まれる。この3種のうちツマグロヒョウモンは関西系の種であるが、2007年頃から出現が顕著になった。アカボシゴマダラは2011年に大谷瓦窯跡で出現を確認後、市内各地で見られるようになってきている。この種は南西諸島から南に産するが、出現している種は大陸産の種で外来種であることが分かっている。ホソオチョウも朝鮮半島や大陸に分布する外来種であり、最近は目撃場所が増加している。以下は調査で出現した種で、写真で代表的な各科の種を紹介する。

アゲハチョウ科

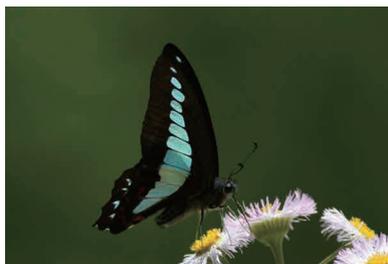
調査では、この仲間は10種類を目撃した。ほとんどが平地で見られる種であったが、ナガサキアゲハなど分布が関西方面に限られているような種も見られている。最近では以前の分布情報から外れるような例外的な種が突然のように出現し、後、その種が定着して見られるような事例が多くなっている。

調査での出現種		
No	科名	種名
1	アゲハチョウ科	アオスジアゲハ
2		アゲハ
3		オナガアゲハ
4		カラスアゲハ
5		キアゲハ
6		クロアゲハ
7		ジャコウアゲハ
8		ナガサキアゲハ
9		モンキアゲハ
10		ホソオチョウ
11	シジミチョウ科	アカシジミ
12		ウラギンシジミ
13		ウラナミシジミ
14		ゴイシシジミ
15		タイワンツバメシジミ
16		ベニシジミ
17		ミズイロオナガシジミ
18		ムラサキシジミ
19		ムラサキツバメ

調査での出現種		
No	科名	種名
20	シジミチョウ科	ヤマトシジミ
21		ルリシジミ
22	シロチョウ科	ウスバシロチョウ
23		キチョウ
24		スジグロシロチョウ
25		ツマキチョウ
26		モンキチョウ
27		モンシロチョウ
28		セセリチョウ科
29	オオチャバネセセリ	
30	キマダラセセリ	
31	ギンイチモンジセセリ	
32	コチャバネセセリ	
33	ダイミョウセセリ	
34	チャバネセセリ	
35	ヒメキマダラセセリ	
36	ヒメチャバネセセリ	
37	ミヤマセセリ	
38	ミヤマチャバネセセリ	

調査での出現種		
No	科名	種名
39		アカタテハ
40		アカボシゴマダラ
41		アサギマダラ
42		アサマイチモンジ
43		イチモンジチョウ
44		オオムラサキ
45	タテハチョウ科	オオウラギンスジ ヒョウモン
46		キタテハ
47		キマダラヒカゲ
48		クロヒカゲ
49		コジャノメ
50		ゴマダラチョウ
51		コミスジ

調査での出現種		
No	科名	種名
52		コムラサキ
53		サトキマダラヒカゲ
54		ジャノメチョウ
55		ツマグロヒョウモン
56		テングチョウ
57		ヒオドシチョウ
58	タテハチョウ科	ヒカゲチョウ
59	タテハチョウ科	ヒメアカタテハ
60		ヒメウラナミジャノメ
61		ヒメジャノメ
62		ミスジチョウ
63		ミドリヒョウモン
64		ルリタテハ
65		ウラギンヒョウモン



アオスジアゲハ

アゲハチョウ科 アオスジアゲハ

素早い飛行をしながら移動する。いろいろな花に吸蜜に来るが、のんびりせずに、忙しい。幼虫はクスノキやタブノキなどを食べる。



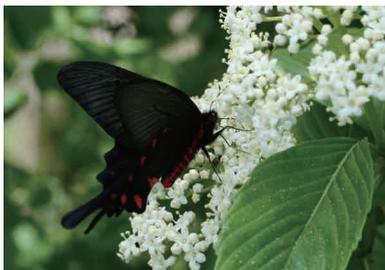
アゲハチョウ

アゲハチョウ科 アゲハ

成虫は年2回の発生で、春型は小さくと夏型は少し大きい。この個体は夏型であるが、少し色がくすんでいる。幼虫はミカン類の葉を食べる。

アゲハチョウ科 ジャコウアゲハ

5月から9月に成虫は発生する。幼虫はウマノスズクサを食べる。黒いアゲハチョウ科のものは数種がいるが、胸や腹が赤く、特徴的で、雌は羽が鈍い金色の色彩で、この写真の個体は雄である。最近では幼虫の食草が同じ外来種のホソオチョウが市内で見られている。新たな競合種の出現で、影響が懸念される。



ジャコウアゲハ

アゲハチョウ科 ホソオチョウ

最近に出現した外来種で、分布域が拡大中である。堤防などの草むらの低空をひらひらとゆっくり飛翔する。細い尾が特徴的で、雄は白いが、雌は複雑な模様がある。幼虫はウマノスズクサを食べ、在来種のジャコウアゲハと競合することが懸念されている。



ホソオチョウ♂



ホソオチョウ♀

シジミチョウ科

今回の調査では11種を確認した。小型の蝶で、森林から草むらまで多様な場所に出現している。色鮮やかな美しい種も多い。

シジミチョウ科 アカシジミ

5月から7月に成虫は出現する。幼虫はブナ科のコナラなどを食べる。調査では都幾川の河畔林で見られた。多くはないが、林縁に時々現れた。



アカシジミ



ウラギンシジミ♀

シジミチョウ科 ウラギンシジミ

初夏から秋まで成虫は出現する。羽の裏側は全面銀色をしていて、シジミチョウにはこのような羽をもつ種はいない。写真は雄で、雌はオレンジ色部分が水色をしている。幼虫の食草はマメ科の植物である。



タイワンツバメシジミ

シジミチョウ科 タイワンツバメシジミ

年に数回、成虫は発生し、道端の草の上に出現する。幼虫はマメ科の葉を食べる。ツバメシジミによく似るが、下翅の上部の体に近い黒点が大きく、オレンジ色の部分が発達している。



ベニシジミ

シジミチョウ科 ベニシジミ

春から秋まで長い期間成虫は見られる。きれいな姿で個体数も多く、市内のシジミチョウの仲間では、一番目につく。幼虫はタデ科のスイバ、ギシギシなどを食べる。



ミズイロオナガシジミ

シジミチョウ科 ミズイロオナガシジミ

成虫は6月頃に出現する。雑木林などで見られるが、市内では多くはない。幼虫はブナ科のコナラ、クヌギなどの若葉を食べる。

シジミチョウ科 ムラサキシジミ

成虫は夏から秋に見られ、晩秋の樹林内

の陽だまりに居ることもある。羽の裏側は黒褐色で地味であるが、羽を開くと鮮やかな青色が出現する。幼虫はブナ科のアラカシ、アカガシなどを好む。

シジミチョウ科 ヤマトシジミ

路傍にいる最もよく見られるシジミチョウで、春から秋まで出現する。幼虫はカタバミを食草としている。



ムラサキシジミ

シロチョウ科

蝶の代名詞のようなモンシロチョウを含む仲間で、この調査では6種が確認できた。ウスバシロチョウを除けば、市内では他の5種は普通に見られる。



ヤマトシジミ

シロチョウ科 ウスバシロチョウ

4月下旬から5月にかけて成虫が羽化する。林縁の草むらの上をゆっくりと飛翔する。幼虫はムラサキケマン、エンゴサク類が食草。栗の花が咲いた頃によく飛んでいる記憶。都幾川の河畔林で見られたが、他の場所での記録はなかった。



ウスバシロチョウ

シロチョウ科 モンシロチョウ

最もポピュラーな種で、シロチョウ類の代表。アブラナ科の植物を食草としている。キャベツや白菜などの作物に産卵するが、幼虫の弱齢期は黒く、大きくなると緑色になる。キャベツでそこまで観察すると、もう葉はボロボロの芯だけ。



モンシロチョウ



モンキチョウ

シロチョウ科 モンキチョウ

成虫は春から秋まで長い期間に発生し、個体数も多い。成虫の黄色の羽は雄、白い羽は雌。幼虫はマメ科の植物を食草とする。



ツマキチョウ

シロチョウ科 ツマキチョウ

早春だけに現れ、陽だまりのなかをゆっくりと飛ぶ。羽の先端が黄色で、裏側には黒い模様があり、モンシロチョウより少し小さい。幼虫はタネツケバなどアブラナ科の草を食べる。

セセリチョウ科

小さい蝶類で草の上の低い場所で見られ、今回の調査では11種を確認している。地味な羽色で同じような色彩をしているので、判別が難しい。



イチモンジセセリ

セセリチョウ科 イチモンジセセリ

6月頃から出現し10月まで見られる。幼虫はイネ科の草を食べる。個体数も多く、調査場所すべてで目撃した。この種に似たものは多く、市内ではオオイチモンジセセリがよく似た種で、個体数も多い。



キマダラセセリ

セセリチョウ科 キマダラセセリ

6月と9月頃の2回、成虫が出現する。日当たりのよい河原などの草地に多い。幼虫はイネ科の草を食べる。この種に似たものも多く、調査ではセセリチョウの仲間ほどできるだけ写真を撮るなどして確認するのが面倒なくらいであった。

セセリチョウ科 ダイミョウセセリ

セセリチョウの仲間の中では特徴的なので判断し易い。幼虫はヤマイモなどの葉を食べ、成虫は年2回、出現する。



ダイミョウセセリ

セセリチョウ科 ミヤマセセリ

4月に現れ、樹林地の陽だまりの中によく見かける。幼虫はコナラなどのブナ科の葉を食べる。早春にいるセセリチョウの仲間はこの種だけ。



ミヤマセセリ

タテハチョウ科

いろいろな模様や形態をもつ分類群で、この調査では27種を確認した。日向の明るい場所を好むものから、暗い林内の日影を好むものもいて、生態的にも多様である。

タテハチョウ科 キタテハ

タテハチョウの代表種と言っていいほど、市内のいたるところで、よく見かける種で、成虫で越冬もするので、一年を通して見られる。幼虫はクワ科のカナムグラを食べる。



キタテハ

タテハチョウ科 ヒオドシチョウ

成虫は夏に出現し、樹液のでる木にも来る。市内では少ない。幼虫はニレ科のエノキ^{ひおどし}などを食べる。昔の武者の緋緞のように鮮やかな色彩をしている。



ヒオドシチョウ



ヒメアカタテハ

タテハチョウ科 ヒメアカタテハ

成虫は5月から11月まで出現する。路傍の草の上などよく飛んでいる。アカタテハに比べ少し小さく、色も淡い。幼虫はイラクサ科のカラムシ、ヤブマオ、ニレ科のケヤキなどを食草にしている。



ルリタテハ

タテハチョウ科 ルリタテハ

春から晩秋まで見られ、成虫で越冬している。羽の裏側は褐色で地味な色彩だが、羽を開くと鮮やかな青と、水色の縞模様が美しい。樹液などにも来る。幼虫はユリ科のサルトリイバラを食草としている。



ゴマダラチョウ

タテハチョウ科 ゴマダラチョウ

成虫は年2回発生する。5月頃にはエゴノキの周りを軽快に飛び回るのを見たことがある。幼虫はニレ科のエノキなどを食べる。



アカボシゴマダラ夏型(上)と春型(下)

タテハチョウ科 アカボシゴマダラ

最近になって市内でも目撃するようになった。国内では奄美諸島に分布するが、埼玉県で見られている個体は、中国大陸に分布する種が人為的に侵入したと言われている。幼虫はニレ科の植物を食べる。春型(下)は後翅の端にある赤い模様が無く、黒い線模様で、沖縄以南に分布するオオゴマダラのように見える。

タテハチョウ科 イチモンジチョウ

イチモンジチョウにはこの種の他に、アサマイチモンジという種がいる。野外では一見ただけでは種の判断は難しい。表の羽は前翅から後翅にかけて1本の白い帯が一文字に見える。成虫は5月から10月に出現し、幼虫の食草はスイカズラなど。



イチモンジチョウ

タテハチョウ科 コミスジ

4月から10月にかけて出現する。ミスジチョウの仲間では一番小さいが、一番普通に見られる。幼虫はマメ科の植物を食べる。翅の表側は三本の白い帯が見え、翅の裏側は複雑な模様で美しい。



コミスジ

タテハチョウ科 ツマグロヒョウモン

もう10数年も前になるが見慣れないヒョウモンチョウの仲間が現れた。雌が色彩に富み、美しい。それからはあちこちで見られるようになり、今は普通種。庭にもやってきて、赤と黒のけげげしいとげとげの幼虫も見られる。幼虫はスミレ科の草を食べる。三重県以西に分布すると図鑑にはあるが、どんなことで分布が広がったのだろうか。



ツマグロヒョウモン♀



ツマグロヒョウモン♂



サトキマダラヒカゲ

タテハチョウ科 サトキマダラヒカゲ

夏、樹液の出る木に集まっている。暗い林内の日陰に多いが、ちょっと蛾を連想させる。幼虫はイネ科のアズマネザサ（地元ではシノと称される）を食草にしている。



クロヒカゲ

タテハチョウ科 クロヒカゲ

夏、暗い林内に出現して地上近くを飛び回る。樹液や、汗の滲んだ腕にまで、やって来る個体もいる。幼虫はイネ科の笹類を食草としている。



ヒカゲチョウ

タテハチョウ科 ヒカゲチョウ

林内の地上近くの日陰など暗い場所を好む。クロヒカゲと比べ体色は明るい。日本の固有種で、幼虫はアズマネザサを食べる。



ヒメウラナミジャノメ

タテハチョウ科 ヒメウラナミジャノメ

5月から9月に成虫は出現する。草むらなどに普通に見られ、ひらひらと草の上を飛ぶ。幼虫はイネ科のカヤツリグサ類を食べる。